

JICA 関係者限定資料

アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦

任国情報



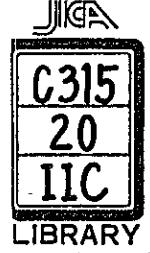
JICA LIBRARY

J 1148510 [9]

1998年

国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年3月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1148510 {9}

目 次

I	概 况	i
II	生活事情	1
ドバイ編		
1.	食 生 活	1
2.	衣 料	4
3.	住 宅	6
4.	医 療	9
5.	教 育	14
6.	家庭の使用人	17
7.	交通事情	18
8.	通 信	22
9.	マスコミ	24
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	26
11.	その他のサービス	30
12.	観 光	31
13.	治安、緊急時の心得	32
14.	出入国手続および帰国手続	33
15.	私財の輸送、引き取り、購入	36
16.	社 交	38
17.	任国官公序	39
18.	在外日本関係機関など	39
19.	地方都市	39
アブダビ編		
1.	食 生 活	40
2.	衣 料	41
3.	住 宅	41
4.	医 療	42
5.	教 育	43
6.	家庭の使用人	43
7.	交通事情	44
8.	通 信	44
9.	マスコミ	44
10.	教養、娯楽、趣味、スポーツ	45
11.	その他のサービス	46
12.	観 光	46

13. 治安、緊急時の心得	47
14. 出入国手続および帰国手続	47
15. 私財の輸送、引き取り、購入	48
16. 社 交	48
17. 任国官公序	48
18. 在外日本関係機関など	48

アルAIN編

1. 食 生 活	49
2. 衣 料	51
3. 住 宅	52
4. 医 療	53
5. 教 育	56
6. 家庭の使用人	57
7. 交通事情	58
8. 通 信	58
9. マスコミ	58
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	59
11. その他のサービス	61
12. 觀 光	61
13. 治安、緊急時の心得	61
14. 出入国手続および帰国手続	62
15. 私財の輸送、引き取り、購入	62
16. 社 交	63
17. 任国官公序	63
18. 在外日本関係機関など	63

I 概況

表-1：アラブ首長国連邦概況

正式国名	(和文) アラブ首長国連邦 (英文) United Arab Emirates																				
独立年月日	1971年12月2日（連邦結成）																				
旧宗主国	英国																				
政体	連邦制																				
元首の名称	シェイク・ザイード・ビン・スルターン・アル・ナハヤーン大統領 (Sheikh Zayed bin Sultan Al-Nahyan)（アブダビ首長国首長） (1996年6選、任期5年)																				
位置・面積	北緯23度～26度 東経50度～56度 84千平方キロメートル（注1）																				
首都	アブダビ																				
総人口	2.5百万人（1995年）（注1）																				
民族	アラブ人、インド人、パキスタン人、イラン人																				
公用語	アラビア語																				
宗教	イスラム教																				
暦	<p><日本との時差> -5時間</p> <p><祝祭日> (1998年) (注2)</p> <table> <tbody> <tr> <td>1月 1日</td> <td>新年</td> </tr> <tr> <td>*1月 30日</td> <td>断食明け大祭</td> </tr> <tr> <td>*4月 8日</td> <td>犠牲祭</td> </tr> <tr> <td>*4月 28日</td> <td>イスラム暦元日</td> </tr> <tr> <td>*7月 7日</td> <td>モハメッド生誕祭</td> </tr> <tr> <td>8月 6日</td> <td>アブダビ支配者の即位</td> </tr> <tr> <td>*11月 17日</td> <td>モハメッド昇天日</td> </tr> <tr> <td>12月 2日</td> <td>連邦結成記念日</td> </tr> <tr> <td>*12月 20日</td> <td>ラマダン初日</td> </tr> <tr> <td>12月 25日</td> <td>クリスマス</td> </tr> </tbody> </table> <p>(*日が変わる可能性のある祝祭日)</p>	1月 1日	新年	*1月 30日	断食明け大祭	*4月 8日	犠牲祭	*4月 28日	イスラム暦元日	*7月 7日	モハメッド生誕祭	8月 6日	アブダビ支配者の即位	*11月 17日	モハメッド昇天日	12月 2日	連邦結成記念日	*12月 20日	ラマダン初日	12月 25日	クリスマス
1月 1日	新年																				
*1月 30日	断食明け大祭																				
*4月 8日	犠牲祭																				
*4月 28日	イスラム暦元日																				
*7月 7日	モハメッド生誕祭																				
8月 6日	アブダビ支配者の即位																				
*11月 17日	モハメッド昇天日																				
12月 2日	連邦結成記念日																				
*12月 20日	ラマダン初日																				
12月 25日	クリスマス																				

出所 (注1) World Development Report 1997 1997 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1997 1997 Europa Publications

1. 国土の概要

アラブ首長国連邦はアラビア半島の東側、北緯 23 度～26 度、東経 50 度～56 度に位置している。ペルシャ湾に面した東西に長い国で、面積は北海道とほぼ等しい。ペルシャ湾を隔ててイランと向き合い、オマーン、サウディ・アラビア、カタルに接している。面積は 84 千平方キロメートル（世銀資料、1997）である。

アブダビ、ドバイ、シャルジャ、ラス・アル・ハイマ、フジャイラ、アジュマン、ウル・アル・カイワインの 7 つの首長国によって構成されている。

国土の大部分が砂漠だが東にハジャル山脈に連なるシャルキーン山脈がある。海岸線が長く、ドバイからラス・アル・ハイマの海岸は塩分を含んだ軟泥地である。アブダビ海一帯には大小の入り江、砂浜、サンゴ礁が存在する。

(参考文献)

『海外生活者の手引き』 1990 世界の動き社

『世界年鑑』 1997 共同通信社

『経済・貿易の動向と見通し アラブ首長国連邦』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

『World Development Report 1997』 1997 The World Bank

2. 気候

気候は亜熱帯砂漠気候に属し、高温多湿である。6～9月は気温が 50 度近くまでになり、この時期は毎日晴天が続く。12～2 月は平均気温 20～30 度である（数値は WEIS 資料、1995）。

年平均気温は 26 度、湿度は年平均 70% 前後である。年間 60 ミリメートルから 100 ミリメートルの雨はほとんど冬季に降る（数値は丸善資料、1993）。

(参考文献)

『理科年表』 1993 丸善

『経済・貿易の動向と見通し アラブ首長国連邦』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

3. 人口

1995 年の総人口は 250 万人（世銀資料、1997）である。また、首都アブダビの 1997 年の人口は 101 万人、その他、ドバイ 75.7 万人、シャルジャ 43.9 万人（EIU 資料、1998）となっている。

全人口のうち自国民は人口の 20%（EIU 資料、1994）に満たず、残りはインド人、パキスタン人、イラン人などの外国人労働者である。

(参考文献)

『世界各国要覧 9 訂版』 1998 東京書籍

Country Profile:United Arab Emirates 1998-1999 1998 EIU

World Development Report 1997 1997 The World Bank

4. 略史

表－2：アラブ首長国連邦略年表

年	出来事
B.C.2000年	古代文明
16世紀	ヨーロッパ列強が湾岸地域に進出
18世紀	アラビア半島南部から移住した部族がアラブ首長国連邦の基礎をつくる
1809年	英國が各首長国を攻撃
1820年	「航海の自由を認める協定」を英國と締結
1835年	「休戦条約」を英國と締結
1853年	「永久休戦条約」を英國と締結
1967年	英國、スエズ以東からの撤退声明
1971年	6首長国がアラブ首長国連邦として独立
1972年	ラス・アル・ハイマが連邦加盟
1978年	連邦最高裁判所設置
1980年	連邦中央銀行創設
1981年	GCC発足
1987年	シャルジャ政変
1990年2月 10月	シャルジャ首長スルタン、実兄アジス皇太子を即位させる ラーシド、ドバイ首長死去、マクトゥーム皇太子が後任となる
1991年	ザイード大統領及びマクトゥーム副大統領の再選決定
1992年	イランがアブ・ムーサ島内のアラブ首長国連邦領へ侵入
1994年	ラス・アル・ハイマとウム・アル・カイワインの二首長国間の国境線を定めた文書が調印された
1997年3月	マクトゥーム副大統領兼首相による新内閣発足（本格的な内閣改造は90年11月の発足以来はじめて）

(注) B C C I : The Bank of Credit and Commerce International

GCC : Gulf Cooperation Council 湾岸協力会議

出所 『世界年鑑』 1993 共同通信社

『世界年鑑』 1995 共同通信社

『中東年鑑 94/95』 1994 中東調査会

『世界各国要覧 8訂版』 1995 東京書籍

『中東研究』 4月号 1997 中東調査会

『Country Profile:United Arab Emirates 1994-1995』 1994 EIU

『The Middle East and North Africa 1995』 1994 Europa Publications

5. 民族

アラブ首長国連邦の住民は、元来アラブ遊牧民（ベドウイン）であり宗教はイスラム教である。民族構成は首長国によって異なるが、全人口のうち、純粋なアラブ首長国連邦人は20%程度 (EIU資料、1998) と見られている。その他はすべて外国からの移住者であり、近隣のアラブ圏諸国をはじめ、多くの外国人労働者が出稼ぎに来ている。民族構成はアラブ人のほか、インド人、パキスタン人、イラン人などである。

(参考文献)

『世界年鑑』 1995 共同通信社

『経済・貿易の動向と見通し アラブ首長国連邦』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

『Country Profile:United Arab Emirates 1998-1999』 1998 EIU

6. 言語

公用語はアラビア語だが、英語も広く使われている。

(参考文献)

『世界年鑑』 1995 共同通信社

『経済・貿易の動向と見通し アラブ首長国連邦』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

7. 宗教

国民の大半はイスラム教徒であり、そのうちの8割はスンニ派で、2割がシーア派である。ただし人口の8割近くが外国人であり、彼らはそれぞれの宗教を信仰している。

民事、刑事事件はすべて伝統的なイスラム法にしたがって各首長またはその代理人によって裁かれることになっている（数値は WEIS 資料、1995）。

(参考文献)

『世界年鑑』 1995 共同通信社

『経済・貿易の動向と見通し アラブ首長国連邦』 1995 世界経済情報サービス (WEIS)

8. 文化

イスラム教の人々は、1日に5回メッカに向かって礼拝を行い、年1回のラマダン月には断食を行う。その他、コーランの教義に基づき、酒を飲まない、豚肉を食べないなどの戒律がある。これらの宗教観は、彼らの実生活の中に根を下ろしており、国民性、風俗に大きく影響を与えている。街には低所得層外国人の娯楽として映画館が多数ある（数値は The British Bank of Middle East 、1985）。

生活様式は各首長国ごとにユニークで独特な側面を持つ。ラクダレース、華やかなダンス、鷹狩りなど、祭りがアラブ首長国連邦の代表的な文化といえる。どんな祭りにも、そ

の他の特別な機会にも、音楽、舞踊、ハンドクラッピング、歌は欠かすことができない。一方、アラブ首長国連邦の国民は外国人教師によって教育を受ける機会が多い上、自国民の人口が全人口の 20% 程度（ EIU 資料、1994）であることなども原因となり、独自の文化を失うのではないかという不安が国民のなかにある。この問題に対処するため、アブダビの Cultural Foundation では、特に若者を対象に文化活動や文化保存などを行っている。

（参考文献）

『Business Profile Series UAE』 1985 The British Bank of Middle East
『Country Profile:United Arab Emirates 1998-1999』 1998 EIU

9. マス・メディア

（1）新聞

主な日刊紙として以下のものがある。

Khaleej Times	（英語、ドバイで 70,000 部）
Gulf News	（英語、86,900 部）
Zahrat Al-Khaleej	（アラビア語、10,000 部）
Al-Ittihad	（アラビア語、58,000 部）
Al-Bayan	（アラビア語、71,469 部）
Al-Fajr	（アラビア語、28,000 部）
Al-Wahda	（アラビア語、10,000 部）
Emirates News	（英語、21,150 部）

（以上数値は Europa Publications 資料、1998）

（参考文献）

The Europa World Yearbook 1998 1998 Europa Publications

（2）放送

1995 年の UNESCO の推定では、600,000 台のラジオ、230,000 台のテレビが普及している。また、アブダビ、ドバイ、シャルジャに官営テレビのキー局がある（数値は Europa Publications 資料、1998）。

（参考文献）

『世界年鑑』 1995 共同通信社

The Europa World Yearbook 1998 1998 Europa Publications

表－3：経済指標 [アラブ首長国連邦]

主要経済指標の 推移		(1995)	(1996)	(1997)
	G D P (十億D h) (注1)	147.0	163.8	N.A.
	一人当たり G N P (ドル) (注2)	17,400	N.A.	17,360
	実質G D P成長率 (%) (注1)	N.A.	N.A.	N.A.
	消費者物価上昇率*1(%) (注3)	8.0	7.4	5.0
	失業率 (%) (注4)	N.A.	N.A.	N.A.
	貿易収支 (十億ドル)	8.36	10.96	3.03
	輸出額(fob)	29.34	33.60	32.98*2
	輸入額(fob) (注5)	20.98	22.64	29.95
	主要輸出入相手国 (注3)	輸出 (1997年) 輸入 (1997年)	日本 (36.3%) 米国 (9.6%)	
	経常収支 (十億ドル) (注5)	7.39	9.84	2.00
	対外債務残高 (百万ドル) (注3)	9,503	10,883	N.A.
	債務返済比率 (%) (注5)	3.6	3.1	3.1
外貨準備高 (百万ドル) (注3)	7,471	8,056	8,372	
通貨 (1997年12月31日) (注3)	通貨単位: UAEディルハム (D h) 1ドル = 3.673 UAEディルハム			
会計年度	1月1日～12月31日			

注) *1: EIU 推定値 *2: 公式推定値

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1996 IMF

(注2) World Development Report 1995-1997 The World Bank

(注3) Country Report:United Arab Emirates 3rd quarter 1997 EIU

(注4) Year Book of Labour Statistics 1996 1996 ILO

(注5) Country Report:United Arab Emirates 4th quarter 1998 EIU

II 生活事情

ドバイ編

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

日本食品を含め、必要な食料品はすべてあるといつても過言ではない。

国土のほとんどが砂漠であり、年間降雨量は100ミリ以下であることから、農業には不適な国である。しかし、食料自給への強い意欲を国策に反映させ、オアシスを基点とした灌漑農業の拡大を膨大な補助金政策のもとで展開している。

世界のあらゆる食料品が輸入されており、日本食品も、複数の地元業者によって輸入されている。ドバイの大きなスーパー・マーケットでは、冷凍食品も含め、日本と大差ない品揃えである。

輸入食品に対する厚生省の監査は厳しく、内容証明と製造年月日の不明な製品は摘発され、強制的に廃棄させられる。また、不良食品により消費者に被害があった場合は、販売店は閉鎖され、刑事責任を負うこともある。

市場の野菜、鮮魚、肉販売業についても上記と同様の処置がとられる。検査官が市の開始前に野菜、魚、肉の検査を行い、食用に不適切と判断されたものは強制的に廃棄させられる。したがって、食料品の衛生管理はしっかりとしており、不良食品による中毒などはほとんどない。

(2) 主な食料の出回り状況

米——日本産の米はないが、アメリカ、オーストラリアからカリフォルニア日本米が輸入されている。パキスタン、インド、エジプトなどからも輸入されている。

小麦粉——原料を輸入して当地で製粉している。また、日本製の小麦粉も小袋で出回っている。

パン——インド、パキスタン、イラクなどの地方色豊かなものから、フランスパンや日本のいわゆる食パンなどがある。パン工場は数社あり、パンのほかケーキ、パイなども作っている。これらはスーパー・マーケットや小売店で販売している。地方色豊かなパンは、その系統の食堂でも焼いていることが多い。

肉——牛肉、羊肉、山羊肉、鶏肉、ハムなどが豊富にあり、冷凍品も含めて出回っている。豚肉と牛肉はヨーロッパからの輸入物である。豚肉は大きなスーパー・マーケットにしかなく、必ず PORK と表示されている。鶏肉と卵は当地産と輸入物がある。

乳製品——牛乳とヨーグルトは当地でも生産・製造されているが、ヨーロッパ各国からもチーズ、牛乳、ヨーグルト類が大量に輸入されている。

魚介類——刺し身にしても安全な、鮮度のよい魚介類が販売されている。マグロ、カツオ、ヒラアジ、サワラ、アジ、モンゴウイカ、カニなどが廉価で購入できる。エビはオマーン、イランなどから輸入しており、日本と比較してかなり安い値で出回っている。また、ヨーロッパから鮭、いくら、スマートサーモンなども輸入しており、スーパー・マーケットで豊富に売られている。

野菜——当地で生産された一般的な野菜から輸入物まで豊富にある。また、ヨーロッパ、アメリカ製の冷凍野菜もスーパーで売られている。

果物——世界中の果実が揃う。二十世紀梨、みかんも季節により入荷される。

調味料——日本製、ヨーロッパ製の調味料はすべて揃っている。また、インド、パキスタン、スリ・ランカなどの多様なスパイスも輸入されている。

食用油——日本製のてんぶら油がある。また、オリーブ油、ヒマワリ油、コーン油などもある。

酒類——イスラム国家であるため原則として禁酒であるが、外国人には警察より酒類購入許可証が発行されている。政府公認の酒店で、日本酒を含む世界の酒類が購入できる。

飲料水——水道は完備されている。海水蒸留による無菌飲料水であるが、水質調整により、わずかに塩分が感じられる。また、国産のミネラルウォーターがある。

清涼飲料水、ジュース類は、外資系メーカーの当地生産品や日本製を含む輸入品などが多数揃っている。

菓子類——日本製品が揃っている。当地製のケーキやパイ、ヨーロッパの菓子(チョコレートなど)も豊富にある。

(3) 食料の入手

ドバイ市内には大きなスーパーが多く、大抵の食料品や日用雑貨は入手できる。

日本食品は、Lals Supermarket と Choitorum Supermarket、Spini supermarket にある。また、大量入手する際は日本食輸入業者の AGSS (TEL:06-422133) に依頼するとよい。市価よりも安い価格で購入でき、自宅まで配達してくれる。

野菜類や果物は、スーパーよりも、ドバイ中央市場や隣の首長国のシャルジャ中央市場の方が品数があり、鮮度もよく廉価である。これらの市場では魚、肉も売られており、混雜を厭わなければ面白い買い物ができるところである。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器調理器具などの入手

日本製、ヨーロッパ製、中国製などの食器、調理器具が、スーパーでや雑貨店に並んでいる。和食用の調理器具も炊飯器からおろし金まで揃っている。

冷蔵庫、コンロ、オーブン、ジューサーなどの日本製電化製品もあり、値段も日本と同様であるので持参する必要はない。

電圧は 220~240 ボルトである。コンセントはイギリス式だが、日本式のプラグも接続できるマルチコンセントが普及している。日本仕様の電化製品を使う際に必要なトランスも当地で入手できる。

食器洗いの中性洗剤などは多様に揃っている。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

急須や湯呑みは当地にもあるが、気に入ったものは見つけにくい。塗りの箸(割り箸はある)、しゃもじ、すし桶、巻き寿司などに使う簞、刺し身包丁など特殊なものはない。

1-3 外食

(1) 飲食店

日本料理店 5軒、中華料理店 7軒、韓国料理店 1軒、そのほかイタリア、スペイン、メキシコなどの各料理店が多数ある。高級料理店のほとんどはホテルの中にあり、飲酒もできる。また、ホテル直営のレストランもある。

アラブ料理店、インド料理店、パキスタン料理店などは町のいたるところにある。一般的な飲食店は、保健局が実施する営業許可審査と定期検査により、衛生的でないと判断されると法的に閉鎖させられる。したがって、町なかの大衆食堂でも安心して食事ができる。

<京> 住所：HYATT REGENCY 内

電話：2064223

<港> 住所：INTER-CONTINENTAL Hotel 内

電話：227171

(2) その他の飲食店

マクドナルド、ウインピー、ケンタッキーフライドチキン、31 アイスクリームの他、ピザ専門店、アラブ風サンドイッチ店、ジュース専門店などが多数ある。いずれも衛生的である。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

ドバイは砂漠気候で高温多湿である。5~10月まで（夏）は日中気温40~50℃、湿度70%以上という酷暑が続く。11~4月は気温は20~30℃となり、100ミリ程度の雨が4~5日で降る。雨の降る時期には朝晩の気温は10~15℃ぐらいまで下がり、若干冷えこむ。したがって、基本的には夏支度でよいが、薄手のセーターやカーディガン、厚手の衣類も2~3枚は用意した方がよい。

素材は、涼しく汗の吸収もよい綿製品を勧める。衣類はスーパー・マーケットや衣料専門店などに豊富に揃っている。

ショッピングモールにはイギリス、フランス、イタリア系の高級衣料専門店があり、綿製品の衣類が豊富に安く（日本に比べて）揃っている。これらの高級衣料専門店では、ラマダン明け、または3月に行うセール（半額近い）が恒例となっている。イギリス系などの子供服の専門店も十数軒ある。靴や靴下、ネクタイ、スカーフなども廉価なものからヨーロッパの高級ブランド品まで揃っている。

大衆的なスーパーには、韓国、台湾、中国製のポリエステル系の衣類が多く、日本製品はない。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

基本的には現在使用しているものを持参し、新規に必要なものは当地で購入することを勧める。男女子供とも、下着やTシャツ類は多めに用意するとよい。

男性……下着、ワイシャツ、背広、ブレザー、ズボン、薄手のセーター、スポーツシャツ、海水パンツなど。

女性……下着、合服、ブラウス、ブレザー、スカート、スラックス、パーティードレス、薄手のセーター、Tシャツ、ショートパンツ、水着、ジーパンなど。

子供……下着、Tシャツなど。

乳幼児……おむつカバー（各種サイズ）、寝間着、下着など。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

寝具やタオルなども含めて大抵の衣料品が揃っており、新規に購入してまで日本から持参するべきものはない。むしろ、当地のラマダン明けのセールなどで、ヨーロッパの一流品を廉価で入手することを勧める。

(4) その他の留意点

直射日光が強く多量に発汗するため、洗濯の回数は多くなる。したがって衣類の傷みは早く、色は褪せやすい。

2-2 礼装

(1) パーティー

夫婦同伴で出席するのは、大使館主催、日本人会主催、外国人主催のパーティーなどに限られる。ホテルなどで行われる屋内でのパーティーでは正装が一般的であり、男性は背広にネクタイ着用、女性はワンピースまたはドレスである。

アラブ人の家庭に招待された場合は日常着でよい。また、屋外でのバーベキュー・パーティーなどでは、ショートパンツなどのカジュアルウエアでもよい。

(2) 式典

公式の式典に出席する機会はほとんどないが、ホテルでのパーティーと同様でよい。

(3) 冠婚葬祭

結婚式には男性は背広にネクタイ、女性はワンピースでよい。

葬儀はきわめて簡素であり、ふだん着でよい。通常、女性は葬儀に出席しない。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

日本製の全自動洗濯機や、日本製やヨーロッパ製の洗剤が豊富に揃っている。日本製の物干し用ハンガーや洗濯バサミもスーパーで入手できる。

洗濯物は早く乾く。ただし高級マンションや高級ビルでは外に干せないため、乾燥機を設置することになる。

ドライクリーニング店は多数あり、料金も安い。また、戸別に受注・配達をしており便利である。背広やフォーマルドレス、スカーフなど大切なものは、邦人がよく利用している大手のクリーニング店（ショッピングモールにある）に依頼するのが無難である。

(2) 仕立て、修繕

多くの布地専門店があり、日本製、イギリス製、フランス製の生地が豊富にある。仕立てたいものを伝えると、それに必要な分量を売ってくれる。

レバノン人、インド人、パキスタン人などの仕立て店が数十軒あり、それぞれ特技は異なる。レバノン人の店はスーツ、ドレス類が主で料金は高い。日常的なものは、インド人、パキスタン人の店で手頃な値段で仕立てられる。見本と布地を持参して注文すれば、背広は20日、スラックスは5日程度でできあがる。ただし、丁寧な縫製は期待できない。

アラブのカンドーラ、インドのサリーなどの民族衣装も手頃な値段で仕立てられる。高級布地でも廉価で買えるので、自分で仕立てるのもよい。電器店では日本製のミシンも扱っている。

かけはぎも仕立屋ができるが、自分で直すか、買い替えた方がよい。

(3) 保管

日常的にクーラーを使っているため、湿気やカビの心配はない。旅行などで家を空ける際は、その間、除湿のためクーラーを弱く作動させておくとよい。また、車のバッテリー管理と盗難予防をかねて、1週間に1度のチェックを知人に依頼しておくとよい。

ナフタリン類はスーパーマーケットにある。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

ドバイには、マンション、アパート、独立家屋（ビラ）など多種多様の外国人用住宅がある。邦人の多くは、町なかのマンションや郊外のビラに住んでいる。

高級マンションの家賃は1ヶ月10~15万ディルハムであり、間取りは3~4LDKが一般的である。通常、セントラルエアコン、共同プール、テニスコート、駐車場などを完備しており、室内にはカーペット、カーテン、ベッド、ソファセット、ダイニングテーブルセットなどが備え付けられている。また、専任ガードマンが常駐しており、防犯設備も整っている。管理作業員が常駐している。

ビラの多くは海岸線に沿って建ち並んでいる。家賃は12万~20万ディルハムで、海に近いほど高くなる。また、家具の有無、セントラルまたはユニット式クーラー、共同プールや駐車場の有無など、付属家具・施設によっても家賃は異なる。高級ビラでは専任の管理作業員が常駐しており、特にガードマンを雇う必要はない。ビラは快適であるが、アリやハエに悩まされることも多い。

中級マンションは2LDK、3LDKが一般的である。家賃は、家具の有無、エアコン設備の機能や有無などによるが、3~5万ディルハムからである。

一般に建築物は粗悪であり、中級マンションでは上階の風呂場やエアコン排水の浸み出し、ビラでは雨漏りが多い。特に天井や壁にシミがある物件は危ない。

3-2 ホテル事情

入国する外国人のほとんどがビジネス関係者であることから、宿泊料金は比較的高い。

ドバイには一流から中流まで多数のホテルがある。3月のショッピングフェスティバルのシーズンを除けば、ホテル探しに苦労することはない。

邦人がよく利用するのはInter Continental Hotel（市中心部）、Hyatt Regency（市内の少しあはずれ）、Hilton Hotel（郊外）、Meridian Hotel（空港の前）、Sheratonなどで、日本からも予約できる。

3-3 住宅の探し方

自らの足で探す、または当地の知人や管理業者に依頼したり、新聞の住宅広告欄を利用するなどの方法がある。自ら出向く場合は「TO LET」の看板を探すとよい。

一般に、新聞に広告を出している物件には、借り手のつきにくい粗悪なものや、割高なものが多い。質のよい物件は「TO LET」の看板や口コミだけで借り手がみつかるため、広告に出ることはほとんどない。外国人の入れ替わりが多い8~9月は物件が豊富である。

エアコン、家具類、プール、テニスコート、駐車場などが完備され、市中心部に位置し、かつ防犯・施設管理がしっかりしているマンションは多数ある。家賃・住居管理のすべてを管理業者に一任していることが多く、所有者は出てこない。

ドバイ市内から離れるにしたがって家賃は安くなるが、通勤、通学、買い物には不便になる。

3-4 住宅の選定上の留意点

個人所有の借家は管理面が弱く、水、電気系統の修繕に時間がかかるため避けた方がよい。天井や壁に水漏れの跡があったり、周囲が汚い物件も避けた方がよい。

当国の道路には排水溝がないため、雨季になると雨や汚水が低地に集中する。したがって、低地区域は避けること。

子供の健康や洗濯物の乾きを考慮して、南向きの物件が勧められる。

3-5 住宅の契約

契約は管理業者と行う。契約内容は法律で定められており、勝手に変更はできない。不良設備の修理などは契約前に要求し、管理業者の経費で行ってもらう。

備え付けの家具などは徹底的にチェックし、破損している物は交換してもらうこと。それを見過ごすと、解約時に自分が弁償しなければならないことがある。

契約書は2部作成し、借り手と管理業者が各自保管する。初期契約は通常1年で、契約金は一括払いである。一般に、掲示価格が契約金となるが、別途、管理費(Maintenance Fee)を5~10%加算があるので、管理費を含むかどうかを確認すること。借家契約金には10%の税金が課せられる。JICA派遣専門家はこれを免除されているが、配属省庁からの税金免除依頼書が必要である。2年目からも原則的には1年契約だが、半年、3ヶ月と区切ることもある。

家賃も契約期間分を一括で前払いする。領収証と契約書は解約時まで保管しなければならない。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

水、電気は、管理業者がメーターのロックをはずすだけで入居時より即供給される。

毎月、水道料金と電気料金を併せた請求書が配付され、水・電気局の所定の窓口で現金で支払う。規定の期日までに支払わないと、まず電気を止められる。また、その1ヶ月後には水が止められる。長期の旅行に出る時は保証金を入れておけばよい。

ビルの場合は上記のほか下水道代も徴収される。

ガスは、ガス業者に注文してポンベとレギュレーターを配達してもらう。

入居後の付帯設備の故障は管理業者の責任で修理をしてもらうが、風呂湯沸かし器、水洗トイレなど水・電気関係の不備は、直接、関係業者に電話連絡する。

3-7 その他

園芸サービス、アクアリウムサービス、住居のクリーニングサービスがある。

エアコンは、日本メーカーのパワーの強い製品を勧める。

ゴミは住宅の周囲に設置してある大きな鉄製ゴミ箱に入れる。分別収集はなく、どんな素材でも一緒に袋に入れて出す。保健局のゴミ収集車が定期的に回収している。

ダスター・シートのあるマンションもあるが、ほとんどは住人または管理作業員がごみ箱に運ぶことになる。

管理作業員のいるビルやビルでは、ゴミ袋をドアの外に出しておくと定期的に巡回して始末してくれる。

屎尿処理は市内、郊外ともすべて水洗である。古いビルでは、排水管、貯蔵タンクの老朽化のため、詰まったり、浸み出しや悪臭が発生することがある。また、水道管の老朽化により、水に錆が混入することがあるので気をつけること。

シャルジャはドバイへの通勤圏であり、かつ家賃は安いが、年間家賃の5%を税金として納める義務がある。完納しないと水、電気、電話回線の供給を受けられない。JICA派遣専門家はこれを免除されているが、配属省庁からの税金免除依頼書が必要である。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

日本から直接入国する場合、義務づけられた予防接種や証明書はない。また、実際にコレラ、破傷風、狂犬病などの予防接種の必要はほんないと見える。

アフリカ、東南アジア地域に出かける人は、当地で種痘、黄熱病、コレラなどの予防接種を受けることができる。

新生児・乳児対象の予防接種はできれば日本で済ませた方がよいが、当地でも問題なく受けられる。ただしイギリス方式であり、BCG、3種混合・ポリオは新生児に同時に行われる。

(2) その他の準備

眼鏡やコンタクトレンズは、予備があれば持参するとよい。当地では、検眼は最新式の測定器で行っているが、レンズはイギリスに注文することになる。フレームはヨーロッパ製品が日本よりも手頃な値段で豊富に揃っている。

歯科治療は赴任前に済ませるようにする。当地にも歯科医院は多数あるが、技術はあまり期待できない。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

国民は、国立の病院、診療所、歯科医院では入院・手術に至るまで無料である。

外国人も、医療登録（手数料1人200ディルハム、3年間有効）を行えば、初診料のみで入院・手術に至るまで無料である。

国立総合病院には、ラシッド総合病院、アルワッセル病院、アルマクトゥム病院、ドバイ中央病院などがある。設備は整っているが、常時満員で待ち時間が長い。また、国立の診療所、歯科医院も数ヶ所あるが、混雑しており、技術的に不安があるため、邦人、ヨーロッパ人にはあまり利用されていない。

邦人が利用しているドバイの医療機関は次のとおりである。

Al Zahar Hospital

電話：06-322214 (Sharjah)

備考：総合病院

American Middle Clinic

電話：215000

診療科目：整形外科、耳鼻咽喉科、内科、小児科

Poly Clinic

電話：213351

診療科目：内科、産婦人科、歯科

Dr. Z. Farooq

電話：213411

診療科目：皮膚科

歯科医院は次のとおりである。いずれも診療時間は 8:30～13:00、16:30～20:00 で予約が必要である。ヨーロッパ系の医師のいるところを選ぶとよい。

Dr. Tyne Coward & Jones Clinic

電話：432427

American Dental

電話：373668

Dr. Timofy Clinic

電話：283948

(2) 緊急時の対応と措置

警察、救急車、消防署への通報・要請は電話 999 番で行う。

国立総合病院には緊急病棟があり、24 時間体制をとっている。また、私立アルザハラ総合病院でも 24 時間体制で緊急患者を受け入れている。国内旅行中などは滞在している首長国の国立総合病院に搬送される。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

家庭用常備薬は必ず持参すること。特に胃腸薬（正露丸など）、消化剤、傷薬（オキシドール、ヨードチンキなど）、虫さされ薬（キンカンなど）、湿布薬、虫下し、小児用かぜ・せき止め薬、小児用解熱剤、座薬、小児用目薬などを携行するとよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

ヨーロッパ製の医薬品が豊富にあり、一通りのものは手に入るが、小児用の医薬品は少ない。日本においては医師の管理下にある抗生物質でも店頭で購入できる。その他の特殊な医薬品は医師の処方せんが必要である。

薬局は各首長国に多数あり、当番制で 24 時間営業している。英字新聞の地元編には救急病院とともに本日の夜間営業薬局の告知がある。その他、韓国系の漢方薬店がある。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品各種、冰枕、リバテープ、綿棒、ガーゼ、脱脂綿、包帯、消毒液のほか、各種殺虫・殺鼠剤などもスーパー・マーケット、薬局に豊富にある。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

総合病院では医薬分業である。私立クリニックでは医師が薬を直接手渡し、服用方法を説明する。特に子供の場合、医師はスプーン何杯と服用量を指示するが、これは当地の子供に該当する量であり、体格的に邦人には多過ぎる場合がある。解説書には体重当たりの分量が指示されているので、これに従うこと。

医薬品の有効期限は、箱または容器に明記されている。不明なものは返品してよい。

医薬品についての解説書が多数発行されているので持参するとよい。神経質になる必要はないが、出された薬の効用・副作用などは書物でチェックすることを勧める。

また、家庭用の医学事典も持参すると安心である。JICA 派遣の巡回医師から提供さ

れた薬品は、その効用、使用法などを書き留めておくとよい。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

総合病院かクリニックで定期検診を受け、血液、尿、血圧、心音などを検査する。検診の頻度は日本ほど多くないが、血液、尿などに不審な点がみつかった場合は回数が増える。風疹経験の有無をチェックしておくこと。

特にドバイは外国人の出入りが多いため、伝染病保菌者に接触しないよう、妊娠初期は人混みを避けること。

言葉の不自由さや習慣の異なる環境により精神的不安は大きい。万一を考慮して日本での出産を勧めるが、当国で出産するのであればアルザハラ総合病院がよい。

早生児出産の場合は、かかりつけのクリニックに電話するか救急車を依頼する。

流産後の処置は、クリニックもしくは知人より信頼できる産婦人科医を紹介してもらうとよい。

出産前後は、妊婦自身や家族の世話を臨時の家政婦／夫（通い）に頼むことになるが、人件費は高くつく。

(2) 出産後の対応

医師発行の出生証明を当国厚生省窓口に提出して出生証明書を作成してもらい、当国外務省窓口にて公印（印紙代 50 ディルハム）を押してもらう。出生証明書は日本大使館に提出する。

日本大使館は出生届を本人の本籍地に送り、折り返し入籍完了通達を受けて、パスポートを作成する。パスポートを受領したらすぐに居住ビザの取得手続きに入る。ビザ取得には所定の書類と出生証明書のコピーが必要である。

母子検診は出産した病院で受ける。その際に予防接種についての指示がある。

(3) 育児

ベビーパウダー、ベビー石けん、シャンプーなどの育児用品、粉ミルク、離乳食などはヨーロッパ製品が豊富に揃っている。日本製の哺乳瓶、チクリもある。

綿の下着、寝間着、布おむつは多めに持参した方がよい。

紙おむつはスーパーマーケットにあり、日本製からヨーロッパ製（パンパースなど）まで各種サイズが揃っている。バギーなどもヨーロッパ製品が揃っている。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

あらゆる手術が行われているが、大手術は日本で受ける方がよい。当地の王族や富裕層はイギリスやドイツの病院で手術・入院をしている。整形外科に関する手術も、技術レベルを鑑みて、緊急の事態を除いて避けるべきである。

(2) 手術設備の状況

当地で手術を受けるならば、アルザハラ総合病院がよい。技術的にはあまり評価できないが、施設は整っている。輸血システムも整備されている。食事にはいくつかのメニューがあり、特に医師の指示がなければ自由に選択できる。付き添い人の宿泊、食事も可能である。

(3) その他の留意点

私立病院では、むやみに手術を行うことがあるので気をつけること。簡易な手術でも、費用は少なくとも5,000ディルハムかかる。医師から手術を勧められた場合は、早急に日本の専門医師に照会した方がよい。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

雨量が極端に少ないため、病原菌の温床となる水たまりや湿地はない。また、保健局では定期的に殺虫剤を全域に散布し、害虫駆除に努めている。

プールで眼病に感染することがある。はしか、風疹などもある。

生野菜や果物から腸内に寄生虫があることがある。これらを食する際は念入りに洗うこと。子供が夜間に肛門を痒がったら、気をつけて観察すること。検便は病院、クリニックで行える。家族全員が定期的に副作用のない虫下しを飲むのもよい。

邦人に多いのは、腎臓結石、胆石などで、多くは水が原因である。これらの兆候がみられたら早めに受診すること。当地では、多量の発汗とカルシウム含有率の高い水質のため病状の進行が早い。

冷房病、日射病、熱射病なども起こりやすい。絨毯の埃によるぜんそく、冬季の砂塵やナツメヤシの花粉によるアレルギー性鼻炎などがある。

病気ではないが、夏季における現場の仕事で安全ヘルメットを使用すると、汗とむれのため脱毛の原因になりやすい。

(2) 風土病・伝染病

外国人および帰国者が、結膜炎、マラリアなどの伝染病を持ち込むことがある。

(3) 有害動物、病害虫

蚊、ハエ（冬季に発生）、アリ、蜂、プールの脱衣場のシラミ、腸内寄生虫などがあげられる。

古いビルやビラに侵入している黒アリの毒は強力で、しひれ、呼吸困難、全身けいれん、全身湿疹を誘発する場合がある。アリ専用の殺虫剤を定期的に散布するといい。咬まれた場合はすぐにキンカンを塗るとよい。ただし、けいれん、発疹などの症状が出た時はすぐにクリニックへ行くこと。クリニックには血清がある。

ヘビ、サソリの被害は内陸の農業地帯に多い。サソリの毒は死に至るものではないが、かなりの苦痛に襲われる。日中は、陰になる物置場、排水溝、マンホール、放置機材や倒木の下に隠れていることが多い。夜間は餌を求めて動き回るので、夜間作業の際は強い照明が必要である。刺されたらすぐに近隣の病院へ行くこと。血清はどの病院でも準備されている。それほど頻繁には出没しないが、作業中は手袋、靴を身に付けること。

ヘビは日中、砂漠の砂の中や湿気のある暗いところに隠れており、夜間に移動する。移動の際に砂面にSを引き伸ばしたような模様を残すので分かり易い。被害件数はサソリより少ないとされるが、特に角のあるヘビは猛毒を有しており、咬まれると死に至ることもある。サソリ、ヘビ、アリよけに、使用済みの古いエンジンオイルを撒いておくといわれている。

近年、クラゲの被害が聞かれるので、夏場の海水浴には気をつけること。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

水道水は海水を蒸留したもので、飲用しても安全である。ただし、ライムプラントで調整されているため塩分が感じられる。一般に、飲料水としては当地産の良質のミネラルウォーターが用いられる。価格は1本（1リットル）2ディルハムであり、他の物価（例：ガソリンは1リットル約1ディルハム）と較べると高価である。

(2) 濾過器の入手

該当情報なし。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

国立校と外国人私立校があり、国立は小学校から大学まで無料である。義務教育は小学校のみである。外国人でもアラビア語が堪能であれば、国立学校への入学が許可される。国立ではすべて男女別席である。私立には幼稚園から高校まであり、すべて有料である。

国立小学校は7歳からで、6年間で修了する。その後、中学（3年間）は無試験の自由進学である。また、高校（3年間）も無試験の自由進学である。

高校2年生～3年生の間に文系、理系のいずれに進学するかを決め、最終試験に臨む。最終試験は60点以上が合格となり、大学または専門学校への入学資格を得る。不合格者は次の年に再受験できる。合格した進学希望者はすべて受け入れられる。

唯一の大学であるUAE大学（1977年開校）はアルアインにあり、男女別講義、全寮制で、医学、水産を除く総合大学である。授業料、寮費、食費、送迎費などすべて無料である。4年制であるが、規定単位数を修得すれば早めに卒業できる。また、留年もあり得る。アルアインに滞在できない女性のために大学支所があり、午後または夜間の講義（週3回）を行っている。これを修了すると大学卒業の資格が与えられる。また、クウェイトやエジプトの大学に留学する道もあり、その費用は教育省負担である。専門学校は2年で修了するが、その後大学に進学してもよい。

小学校修了者および老人のために、夜間中学と夜間高校がそれぞれ4年ずつあり、無料である。修了後、最終試験に合格すれば大学進学もできる。

UAE大学の講師や中・高校教師のほとんどは、アラビア語の話せる外国人である。近年、小学校低学年の教師に当地の大学卒業生が増えてきてはいるが、まだ外国人に依存しているところが多い。

(2) 日本人学校

ドバイ日本人学校（TEL：549119、549123）があり、小学校から中学校までの授業を行っている。ドバイ郊外（Dubai-Abu Dhabi Road）に位置し、生徒数60人程度で、校舎や運動場など整った施設を有している。クラブ活動や運動会、学園祭などの活動も盛んである。

英語科目の時間が多いため、年間授業日数は日本より長い。始業時刻は8:45で、送迎バスが学童全員の住居を回る。休日は金曜日で、木曜日を除いて弁当持参である。

中学生の卒業式は12月中旬に行い、日本での高校入試に対応できるよう配慮している。

(3) 現地校、外国人学校

外国人学校にはインド、パキスタン学校が多い。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスなどのインターナショナルスクールもあり、いずれも言葉に問題がなければ自由に入学できる。いずれの学校も、自国の教育システムに基づいて指導している。

(4) 幼稚園

幼稚園や保育園は数多くあり、アラブ、インド、パキスタン、ヨーロッパ系など多様である。園内で使用する言語もそれぞれ異なる。

邦人子弟はイギリス系の幼稚園に行くことが多い。4～6歳児であれば、どこにでも自由に入園できるが、トイレがひとりでできることなどを要求される。送迎サービスの有無は各園により異なる。

保育園は2～4歳児を預かっており、トイレのできない子には着替えのパンツを数枚持たせる。給食はなく、お昼頃に閉園となる。

保母や教諭は外国人児童の扱いに慣れており心配はない。

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

入学手続きには日本での在学証明書が必要である。入学金は850ディルハム、授業料は月額950ディルハム（送迎費込み）である。そのほか傷害保険料に月額10ディルハム、PTA会費に月額20ディルハムが必要である。

学期は日本と同様であるが、学期毎の休暇は少し長い。休校日は、天皇誕生日のほかは当国の祝祭日に則っている。

(2) 現地校、外国人学校

一般に、入学手続きには所定の申請用紙、本人のパスポートのコピー、写真2枚が必要である。

インド、パキスタン学校では男女別のクラスになり、午前と午後に分かれて授業を行う。入学金は400～500ディルハム、授業料は学年により異なるが、雑費込みで月額300ディルハム程度である。送迎バスがある。

インターナショナルスクールは、入学金は1,000ディルハム以上、授業料は1,000ディルハムに雑費が加算され、日本人学校よりも高い。昼食は弁当持参か学内食堂を利用する。

(3) 幼稚園

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

図書館は下記のとおりである。いずれも、館外貸し出しは登録者に限られる。登録にはパスポートのコピー、写真、会社の就業証明書などがある。児童図書館はない。

- ・Dubai Public Library（市立、無料）
- ・Library of Ministry of Information（国立、無料）
- ・British Council Library（有料）

(2) スポーツ施設

各種のスポーツクラブが充実している。ほとんどのクラブは会員制であるが、予約すればビジターも使用できる施設も多い。高級住宅にはテニスコートや共同プールが付設されている。一流ホテルにも、あらゆる室内スポーツの施設がある。私設のアイススケート場、ボウリング場などもある。

スポーツ用品やウエアは、ヨーロッパの一流品が揃っており、日本よりも廉価であるが、子供用は少ない。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語の教師にはイギリス人、インド人がいる。アラビア語の教師はレバノン人、シリア人、エジプト人などで、料金は時間、回数などによる。

英語教室（有料）が British Council で開かれている。私設の英語、アラビア語教室もある。

(2) 通信教育

赴任前に子供に適した通信教育を探して手配しておくのが望ましい。OCSでも通信教育を取り扱っている。ドバイ日本人学校で紹介してもらうこともできる。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語の教材はないので、必要な参考書や辞典類は持参した方がよい。教科書は日本人学校から配付される。また問題集なども学校側で用意しているので、大量に持参する必要はない。

一般的な文房具であれば日本製、韓国製、ヨーロッパ製などが当地にも揃っているが、習字道具、下敷き、たて笛、ハーモニカ、体操着、小学生用ソックス、子供用柔道着などはないので必要であれば持参すること。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

邦人の多くは使用人の常雇用をせず、家政婦／夫のパートタイムサービスを利用している。ドバイにおいては、運転手、庭師、ガードマン雇用の必要性はあまりない。

当国における使用人は、すべて外国人（インド、バングラデシュ、スリ・ランカ、タイ、フィリピンなど）である。

一般に、使用人を雇用するには次の方法がある。

a. 個人で使用人を外国から入国させる（知人宅の使用人の兄弟、友人など）。

所定の申請用紙、入国ビザを用意し、航空券を送付して受け入れる。

b. 使用人斡旋業者を利用する。

面倒な手続きはないが、便利な反面、高額である。

家政婦／夫用の部屋のある住宅は家賃が高額であり、使用人の居住ビザ取得責任（使用人の身体検査証明書が必要）、年に最低45日の休暇、飛行機の往復運賃の負担、使用人の行動に対する責任など、雇用に際しては面倒な負担が多い。

6-2 運転手

(1) 雇用

運転手の給与は他の使用人に比べて高額であり、個人ではとても雇用できない。

当国は車社会であり、生活に車は不可欠であるが、道路は広く交通量も少ないので、比較的安心して自分で運転することができる。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

該当情報なし。

(2) 雇用

給与は500～1,500ディルハム程度である。

(3) 日常管理

該当情報なし。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

高級マンションやビルには管理作業員が常勤しており、警備と庭の手入れなどを行っている。治安は安定しており、ガードマンを雇用する必要はない。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ドバイ市内における主な交通手段はタクシーである。市営バスも一定区間を走っているが不便である。アブダビなどとの都市間には、長距離タクシーとライトバンのバスがある。

市内タクシーはどこででも拾うことができ、料金は交渉で決まる。相乗りと占有(Engage)があり、占有は少し高い。長距離タクシーやバスは一定料金があり、乗降場も決まっている。値段は少し高いがラジオタクシー(無線タクシー)があり、電話(23666番)予約できる。女性の単独での利用はあまり勧められない。

(2) 自家用車を利用する場合

幹線道路はすべて舗装されており、市内、都市間は4車線である。

市内には道路駐車場が完備されており、これは無料である。中心街には低料金の屋内駐車場もある。

ガソリンスタンドは幹線道路沿いにある。

(3) レンタカーを利用する場合

レンタカー会社は多数ある。大手の店にはロールスロイス、ベンツ、BMW、日本車各種が揃っている。地元店では日本車がほとんどで、その他の外車は少数である。

主な会社は次のとおりである。

Europcar……………TEL: 434221

AVIS……………TEL: 245219

Inter Rent……………TEL: 662233

Jet Rent a car……………TEL: Ajman-421955

Speed Rent a car………TEL: Sharjah-593222

料金は車種や借用日数で設定されている。一般に、大手の会社は車種は多いが料金は高く、地元の会社は車種は少ないが安価である。ホテルでの紹介は大手に限られるため、『Yellow Pages(商業電話帳)』のCar Hire & Leasingの項で調べて直接問い合わせるとよい。

レンタカーを借りる際は、必ず全額補償傷害保険に加入しておくこと。ドライバー付きは高いので避けた方がよい。ドライバーが必要ならば、市内のタクシーを借り切る方が格段に安い。

(4) 道路地図

道路地図はホテルの案内所やレンタカー店においてある。詳しい全国地図はホテルのキオスク、書店にある。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

市内では前方不注意や一時停止無視による追突事故、郊外ではスピードの出し過ぎ、居眠り運転、無謀運転による事故、正面衝突、車道外横転、標識衝突、ラクダや牛との衝突などがある。近年は酒酔い運転による事故も増加している。

交通ルールはおおむね守られているが、信号のない交差点、円形交差点(ラウンド

アバウト) では STOP 標識を守らない車が見受けられる。

市内での事故の主な要因にタクシーがある。客がいればところかまわず急停車するため、追突事故を誘発している。また、大型トラックの動きにも注意が必要である。したがって、市内では十分な車間距離をとることが肝要である。特に、前方車両の急停車や左側車線からの無理な割り込みなどに気をつけること。

砂漠や農業地帯では、ラクダ、牛、羊などに気をつけること。特に夜間は見通しが悪いので危険である。

緩い砂地の道路は、はまりこんで出られないことがあるのでなるべく避けること。人通りの多いところであれば助けてもらえるが、砂漠地帯では深刻な事態になる。

どうしても砂地から抜け出せない場合は、タイヤの空気を 4 本とも抜くとよい。ただし、ガソリンスタンド（コンプレッサーを常備している）に向かう間にタイヤは使用不可能となる。

摩耗した古いひび割れタイヤは、高速道路運転中に破裂し、タイヤバーストを起こして大事故を引き起こす可能性があるため注意すること。

事故に遭った場合は、可能な限り現状を保持し、警察、当地の友人、邦人の知人（保証人になる人）に連絡する。相手が、自分を有利にする目的で現状を変えようとする行為は断固阻止すること。

警察官の多くは英語が通じないため、事情聴取はアラビア語のできる側から始められる。したがって、アラブ人を相手に事故を起こした場合はかなり不利である。明らかに当方に非がある時は、直ちに認めた方がよい。また、いかなる理由であれ、追突事故は追突側の前方不注意となり、弁解は通らない。

事故当事者は最寄りの警察に連行され、調書をとられる。調書はアラビア語であるため当地の友人の助けが必要である。

軽い追突などであれば非を認め、損害賠償金を傷害保険で支払うのが賢明である。

保険請求手続きは、警察発行の事故証明書、相手車両の修理費用見積書（3 カ所で見積るか、保険会社指定工場発行）、自分の車両修理費用見積書（保険会社指定工場発行）を提出する。事故車の写真が必要な保険会社もある。事故当事者は、保証人が引き取りに来るまで警察に留められる。保証人はパスポートを持参して出頭し、そのパスポートと交換に解放される。その際、警察は簡易交通事故裁判期日とパスポート預かり証を発行する。裁判で非を認め、罰金を支払えばパスポート返還証書が発行される。保証人はこの証書でパスポートを回収する。

人身事故、酒酔い運転による事故を起こした場合は、即刻留置場に留置され、裁判にかけられる。特に酒酔い運転による人身事故は、軽いものでも罰金と国外追放、時には鞭打ち刑と十数年の禁固刑となる。

当地の人を相手に重大な事故を起こした時には、裁判での刑罰、または示談となる。当地の友人を介して、相手筋に近しい首長一族に仲裁を頼むとよい。

ラクダ、牛、羊、山羊（犬、猫、ロバ、野生の動物などは含まない）などの家畜に被害を与えた場合は、警察に連絡し、現場検証を行う。所有者の出現を待って損害賠償金を支払う。通常、ラクダは 5,000 ディルハム程度であるが、血統証つきの競走用ラクダには上限がない。牛は 1,000 ディルハム、羊は 500 ディルハムが相場である。

原則として、裁判所の仲介により賠償額は所有者の要望に従う。法外な金額を要求され納得できない場合は裁判にかけられる。一般に、昼間の事故については加害者の非となる。夜間の場合は家畜放牧地帯道路（ラクダ注意の標識がある）を除き、賠償は免責される。

当て逃げられた時は直ちに警察に通報し、事故証明書を発行してもらう。

(2) 救急病院

救急車は無線電話で適切な病院を探してくれる。交通量の多い時間帯に限り、都市間のバイパス中間地点には救急車が待機して万一の事態に備えている。治療は国立病院で行うため無料であり、医療費、慰謝料などを請求されることはない。

(3) 盗難

まれに、富裕層の多い地区やホテルの駐車場、外国人居住地で発生する。車内の金品を狙うものと車両目的とがある。いずれも鍵、ガラス窓を壊す手口である。

盗難防止には専用ガレージが望ましいが、一般住宅には完備されていない。いっそ鍵をかけず（鍵やガラスを壊される心配がない）、何も置かないという方法もある。

被害に遭った場合は現状を保持し、直ちに警察と当地の友人に連絡し、事情聴取（アラビア語）に応じる。甚大な被害（保険で規定）があれば、警察より盗難災害証明書を発行してもらい、保険でカバーする。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車両は右側通行である。信号のない円形交差点では、円形内走行車両優先、外出車両優先である。円形内での車線変更は後続や隣の車両に気をつけること。原則として、内側車線優先である。標識は日本と同様であり、アラビア語と英語の表記である。

幹線道路では時速 80~120 キロメートル、市内幹線道路は時速 60~80 キロメートル、中心街は時速 40~60 キロメートルなどの制限表示がある。

駐車違反、一方通行無視、信号無視、スピード違反などはすべて罰金の対象となる。スピード違反には、日本のネズミとりシステムが導入されている。罰金は、時速 20 キロメートル超以上が一律 200 ディルハムである。市内の混雑した地域では、時速 10 キロメートル超以上から罰金の対象となることもある。

違反の際は、逃亡を防ぐため免許証を没収され、罰金支払い指定期日（1 週間後）記載の預かり証明書が渡される。指定期日に交通警察に出頭して（代理人可）罰金を支払うと、免許証が返却される。預かり証明書は 1 週間の仮免許証でもあり、紛失してはならない。

駐車違反に対しては、タイヤロックとレッカー車で対処される。昼間、繁華街の駐車禁止地帯で車が消えたら、レッカー車で撤去されたと考えてよい。罰金にレッカー車使用料が加算される。その他、スピード違反と同様に取り扱われる。

年に一回、無免許運転、盗難車、不整備車両の一斉検問があり、免許証、車両登録証、ライト、ウインカーなどのチェックが行われる。免許証と車両登録証は必ず携帯すること。なければ不携帯違反で罰金が課せられ、時には盗難車とみなされて車両の一時没収もある。

シートベルトの着用および児童の後部座席乗車は義務づけられており、違反は罰金

(100 ディルハム) の対象となる。

大事故の際は血液検査が行われ、酒酔い運転の有無を問われる。

(2) 対処方法

交通違反を警察官に指摘された場合は、素直に従うことが肝要である。弁解などは通用せず、逆に業務妨害で罰金が加算されることになる。

首長一族の車両（緑色の地に赤色の月と星、または、赤・白色地分割、アラビア数字のみのナンバープレート）には近寄らないこと。警察はドバイ首長の管轄下にある。

また、2桁ナンバーは地元の有力者の車両である。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車を含む外車メーカーの各代理店があり、大抵の部品は入手できる。特にトヨタ、マツダ、日産、ホンダ、スズキ、ベンツ、BMW、シボレーは独自の部品販売サービス・修理工場を有する。その他の部品小売店も多数ある。

(2) 修理工場

各メーカーの専門修理工場があるが、修理には日数がかかり、料金も高い。通常のサービス・修理であれば、個人の工場の方が迅速で安価である。

車両のペイントには、警察の無事故証明書が必要である。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

電話の普及率は非常に高い。国内はすべて直通で、国際通話も直通化されている。

公衆電話は幹線道路沿いや市内繁華街に設置され、国際通話もできる。公衆電話には1ディルハムコイン式とテレホンカード式があり、テレホンカードは電話局や指定ガソリンスタンドで販売されている。自動車電話も普及している。

電話の新規設置は、Etisalat (UAE 電信電話局、営業 7:30 ~ 20:00) で、所定の申請用紙にパスポートのコピー、就業証明書、住居契約書コピーなどを添えて申し込む。設置までは数日を要する。

電話料金は、毎月送付される明細書を基に、指定銀行またはEtisalat の窓口にて支払う。期日までに支払いが無い場合は即刻回線を切られる。復線するには料金を支払い、その旨を 170 番に伝えればよい。旅行などで長期間家を空ける際は保証金を入れておくとよい。

Etisalat の窓口で電話帳 (White Pages) 、商業電話帳 (Yellow Pages) 、長距離電話コード帳 (Etisalat Direct Dialling Handbook) を無料配布している。

(2) 国内電話

市内通話は無料である。番号案内は 181 番である。

(3) 国際電話

日本へは 0081→0 を除いた市外局番→市内局番の順にダイヤルする。料金は 1 分につき 12 ディルハムで、金曜日、祝祭日は割引サービスがある。国際電話コード番号案内は 100 番である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ファクシミリ、テレックスは発達しており、回線状況も良好である。

設置は Etisalat に申請する。ホテルでも、これらのサービスを利用できる。

(2) テレックス

前述の他、Etisalat でも利用できる。

(3) 電報

Etisalat で受け付けているが、あまり利用されていない。配達制度がないため私書箱に届く。

(4) インターネット

Etisalat にて、所定の書式で申し込む（電話の設置後）。数日で加入受理書と ID が郵送されてくる。接続には、電話局の専門職員が自宅まで来てくれる。料金は月間 80 ディルハムで、18 時間まで無料である。モジュラ形状は日本と同様である。

8-3 郵便

(1) 一般事情

配達制度はなく、郵便局に備え付けの私書箱に届く。郵便物の紛失はほとんどない。

私書箱の設置は、近くの郵便局の窓口に所定の申請用紙と私書箱年間使用料 150 ディルハムを提出すればよい。

小包や書留の受け取りは、まず到着通知書が届くので、この通知書と身分証明書を郵便局に持参して引き取る。小包を放置すると保管料をとられる。

発送物は郵便局備え付けポストに投函する。市内にもポストは設置されているが、回収が不定期なため長期間放置される可能性があり勧められない。

日本までの航空郵便料金は、書簡は 20 グラムまで 3.5 ディルハム、はがきは 2 ディルハムである。小包用のポストと書類は郵便局に用意されている。

記念切手は窓口で購入できる。

(2) 課税

一般の小包に対する課税はない。ビデオテープに限り検閲される。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

英字紙には『The Khaleej Times』、『Gulf News』、『Emirates News』、『Gulf Today』がある。これらは宅配で月末に集金が来る。長期購読には割引がある。『The Khaleej Times』はインターネットでも閲覧できる。

アラビア語紙には『Al-Ittihad』、『Al-Khaleej』、『Al-Bayan』、『Al-Fajer』、『Al-Wahda』がある。政府や政党発行の機関紙はない。

定期購読・宅配は、近くの新聞取扱店（書店、文房具店）に依頼する。

その他の私営新聞は、宅配の他、スーパーや街頭でも一部2ディルハムで販売されている。

(2) 本邦日刊紙

本邦日刊紙、週刊誌はOCSが取り扱っており、新聞は1日遅れて届く。『朝日新聞』と『日本経済新聞』は夕刊込みの衛星国際版（ヨーロッパ印刷）である。赴任前に申し込んでおくとよい。月間購読料金は新聞が2万1,000～2万7,000円、週刊誌類は1,000～2,000円である。OCSでは通信教育用問題集の送付サービスも行っている。

海外新聞普及協会（OCS）

所在地：〒108-0023 東京都港区芝浦2-9

電話：03-3453-8311

FAX：03-3453-8329

ドバイ事務所 電話：525757、FAX：693379

(3) 欧米紙

有名欧米紙・雑誌は、ホテルのキオスク、大きな書店、文房具店、スーパーで1～3日遅れて販売している。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

アラビア語放送は、ドバイ、アブダビおよび近隣諸国から入る。英語放送にはUAE Radio Dubai、Radio Abu Dhabi、Capital Radio、FM Dubai、FM Radio Bahrain、BBCの5局がある。

(2) ラジオジャパン

20:00過ぎにガポンより放送が入る。

(3) 聴取可能なその他の外国放送

性能のよい短波専用ラジオであれば、日本を含む世界の放送を聞くことができる。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

ドバイ、アブダビにはそれぞれアラビア語、英語の番組がある。シャルジヤ、アジマン首長国にはローカル放送局がある。平日の放送時間は16:00～24:00で、新聞に番組案内が載っている。

首長一族の重鎮が死亡した日は、すべてのテレビ番組がコーランの弔いに変更され、ラジオではニュース以外はクラシックを流す。

(2) テレビ受信

カラー放送が普及している。受信方式は日本と異なり、ヨーロッパと同じPALシステムである。

テレビ受像器は当地で購入できるので持参する必要はない。テレビ、ビデオデッキはマルチシステムがよく、これならば日本のビデオテープも再生できる。

NHK海外放送を含むすべての外国放送が受信できる。これには衛星放送受信アンテナとチューナーが必要であるが、ほとんどの高級住宅には備えられている。無ければ契約時に敷設してもらうとよい。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

インド、ヨーロッパ映画が主流である。映画館は多数あり、そのほとんどはエアコンを備えている。また、ドライブインシアターもある。料金は5~15ディルハム程度で、作品の新旧や知名度および指定座席か否かにより異なる。上映開始は祝祭日は朝から、平日は19:00ぐらいからである。

(2) 劇場

大劇場はないが、小さな劇場は教育施設として利用されている。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

出版活動の大半は外国人を対象に行われている。日刊紙の付録として1週間の催し物、レジャー、テレビ番組案内などを掲載した雑誌がある。週刊・月刊誌はアラビア語、英語ともに発行されている。ビジネス年鑑が年1回刊行されている。

(2) 書店

書店に専門書は少なく、小説、週刊誌類が多い。書籍展示即売会が年に1回開催される。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

英語、アラビア語教室はいくつかあるが、邦人がよく利用しているのは British Council (TEL 370109、有料) である。

(2) 家庭教師

専業の家庭教師はいない。知人を通してBritish Councilの英語、アラビア語教師に依頼するとよい。授業料は当人と交渉する。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

農業、工業、各種機器などの博覧会が、ドバイ博覧会会場にて頻繁に行われており、すべて企業単位の参加である。一般の催し物はホテルで行われている。

ドバイ博物館 (TEL 531862) とドバイ動物園が市内にあり、いずれも有料である。ドバイ博物館では風土史の書籍、民芸品などを展示即売している。冬季には各種の博覧会が催され、展示即売もある。

市内外に大小の公園が多数あり、いずれも無料である。一部、女性・子供専用（男性立入禁止）の公園もあるので注意すること。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動内容

該当情報なし。

(3) その他の文化活動、文化施設

当地の人専用の公民館がある。公営の手工芸、美術・教養教室もある。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムはフジ、コニカ、コダックなどのカラーが主であり、価格は36枚撮りが10ディルハムと安価である。スライド用フィルムは36枚撮り25ディルハムである。現像・焼き付けサービスは1時間で仕上がり、状態もよい。料金は、現像は1本8ディルハム、焼き付けは1枚0.5~1ディルハムである。

日本製のカメラおよび付属品が各種揃っている。在庫のない物は日本より取り寄せててくれる。

(2) ビデオセット

日本製品が各種揃っており、ほとんどがVHS対応である。機能の多いものほど値段は高くなる。日本のビデオの再生にはNTSC 3.58が装備されているマルチシステム搭載ビデオデッキとテレビが必要である。電器店、カメラ店は多数あり、価格に大差はない。

(3) 各種テープ

ビデオテープは、電器店、スーパーマーケット、カメラ店に各種揃っている。

レンタルビデオ店は多数あり、会員制である。

当地でPAL録画したり、購入したビデオテープは、日本では再生できないので注意すること。大きなビデオショップにはPALからNTSCに変換できる機器がある。

日本からのテープの持ち込み、送付の際は、男女の接触、裸体シーンはカットされる。また、ポルノ作品持参者は即刻留置場に入れられ、罰金、国外追放となる。書籍類もこれに準じる。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

外国人アーティストのコンサートは一流ホテルで、地元の民族音楽会は小劇場で頻繁に行われている。

(2) コーラス、演奏グループ

外国人が地元の演奏・コーラスグループへ参加するのは難しい。新聞の趣味の欄に求人が載っており、外国人同士でグループを結成する人もいる。

(3) ピアノなど

該当情報なし。

(4) CD、レコードなど

ミュージックテープ専門店は多数ある。アラブ、欧米の作品の海賊盤があり、5~10ディルハムと廉価である。購入の際は、常設のカセットレコーダーで品質をチェックすること。

レコードはデパートの音楽コーナーにあるが、品数はテープに比べてかなり少ない。

(5) 民族楽器

民族楽器を含むすべての楽器は、市中のアレグレア・センター・デパートで販売されている。楽器の家庭教師はいるが、調律師などの専門家はいない。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

手工芸センターでは、当地の女性の作成した作品を、センター内やホテル内の店で展示即売している。土産物店にあるものはすべて周辺国、インド、パキスタンなどのものである。

(2) 絵画、美術工芸

美術工芸店は数軒ある。外国人による絵画がデパートのロビーで販売されている。アートセンターでは絵画や焼き物教室を開いている。

10-8 趣味

(1) 園芸

園芸用品、種子、種苗はスーパーマーケット、花屋、農業専門店で販売されている。日本から種子を持参して冬季に植えるのもよい。観賞用植物も豊富にある。

(2) 釣り

ドバイはペルシャ湾に面しており、釣りは立ち入り禁止区域以外はどこでも可能である。日本人会主催、ホテル主催などのボートフィッシングが頻繁にある。砂浜でキス、コトヒキ、小クロダイなど、岸壁でチヌ、ハタ、フエダイ、フエフキ、サヨリ、ダツなどが釣れる。スポーツ店に、日本製、ヨーロッパ製の釣り道具が揃っている。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

砂漠ドライブ、キャンプ、筏漕ぎ競争、ラクダ競走観覧などを楽しめる。チェス競技も一部の人々に人気がある。大きな公園ではバーベキューが許可されており、休日には盛んに行われている。室内ではトランプゲームが多い。賭事は禁止されており、カジノは存在しない。ホテル、クラブ主催の仮装パーティー、バーベキューもある。

日本人会はボウリング、ソフトボール、バレーボール、マージャン大会、忘年会などを開催している。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

外国から来たショーは高級ホテルで行われ、新聞に広告が出る。電話予約でも、直接申し込んでもよい。

サーカスが冬季に数回、Al Nasel レジャーランドで行われる。

10-10 スポーツ

(1) テニス

テニスクラブは公立、私設をはじめホテルなどに多数あり、すべて会員制である。高級マンションにはテニスコートがあり、居住者は自由（予約制）に使用できる。テニス大会も頻繁に開催されている。

(2) 水泳

ホテル、クラブ、公営のプールがあり、いずれも会員制である。高級マンションには付属プールがある。水質に問題はないが、脱衣場で眼病、シラミに感染する場合があるため、貸しタオルや衣類などに気をつけること。

ドバイ沿岸は遠浅の砂浜であり、海水浴に適している。立ち入り禁止区域以外は、どこでも泳ぐことができる。夏場はクラゲに注意すること。水、食料、日傘を持参す

ること。

刺激的な水着は避けた方がよい。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

サッカーが最も盛んであり、3カ所の国立競技場で行われている。また、国内競技大会が盛んであるが、外国人は参加できない。

柔道、空手、テコンドー教室がある。そのほかにマリンスポーツ、砂スキー、砂漠ツアーや登山、テニス、ゴルフ、ボウリング、アイススケート、乗馬などを楽しめる。大人のスポーツ用品は揃っているが、子供用は少ない。

(4) スポーツクラブなど

「5-3 教育関係施設」(P.15)を参照のこと。

10-11 子供の遊び

夏季は外に出られないため、プールを除けば室内で遊ぶしかない。ビデオ観賞が盛んである。私設の子供用室内ゲームセンターが数軒あり、インベーダーゲームや乗り物がある。また、日本製を含む世界の玩具が揃っている。

冬季には外に出る機会が増えるが、居住区域の異なる当地の子供と遊ぶことはない。邦人子女は、学校や幼稚園の級友の家庭を相互に訪問して遊んでいる。子供の外出には送迎が必要である。

休日は家族同伴で砂漠、海、レジャーランド、スポーツクラブで過ごすことが多い。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

ヨーロッパ系または地元系列の大銀行を利用して、JICA から当地銀行に送金がある。銀行口座の開設にはパスポートとそのコピーが必要である。

為替手形を利用して、ディルハムから円に直接換金して、日本の口座に振り込むことができる。郵送と電信とがある。

口座を閉鎖する際は所定の閉鎖申請書類を提出する。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院は高級ホテル付属店をはじめ多数あり、セット、カット、パーマなどのサービスを行う。よく利用されているのは下記の店で、いずれも電話予約が必要である。

ヒルトンホテル内 TEL 370000

アレグレア・センター・デパート TEL 229899

ハイヤットホテル内 TEL 221234 (Ext. 4181)

ビューティーパーラー東京 TEL 229958

理髪店も多数あり、大衆的な理髪店では 10~15 ディルハム、高級店では 50~100 ディルハムくらいである。

整髪料や化粧品は、自分にあったものを多めに持参すると安心であるが、当地でもヨーロッパの一流品が入手できる。ヘアドライヤー、剃刀、ハサミ、セット用品なども揃っている。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

観光客にはビザを発給していないが、ホテルがスポンサーになることで、1週間程度の入国はできる。宿泊はスポンサーのホテルに限られる。大抵のホテルには周遊観光バスが巡回している。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

特に観光地といえるところはないが、砂漠ツアー、国内観光ツアー、ダイビングツアーや釣りツアーなどがある。ホテルのフロントに各パンフレットがおいてある。

12-3 旅行

(1) 自動車

該当情報なし。

(2) バス

該当情報なし。

(3) 鉄道

該当情報なし。

(4) 航空機

ドバイを経由する航空会社の支店、代理店がある。

12-4 旅行代理店

市内には多数の旅行代理店がある。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

入国時にはホテルが決まっていなければならない。空港出口には、大きなホテルから迎えがきている。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

日本人会の連絡網があり、大使館—日本人会理事—各区域役員—会員相互となってい

る。

首長国同士の緊張はあまりなく、急進的な政治組織も存在しないので、クーデターなどの可能性は少ない。首長国継承権争いが内部で発生することはあっても、外部への影響はない。問題が発生した時は、自治首長国であるので隣の首長国に避難すればよい。

13-2 強盗、盜難

(1) 一般的治安状況

治安は安定している。国が裕福なため失業者、貧民層がない。外国人は各首長国ごとにすべて職業登録されており、失業者はいない。

犯罪に対する刑罰は重く、盜難常習犯の手首切断、凶悪殺人者の即刻銃殺刑、窃盜・ひき逃げ犯の鞭打ち刑など、すべて公開の場で行われる。問題を起こした外国人は、即刻国外追放となる。

ゆとりのある生活、宗教、重刑罰が犯罪の歯止めになっている。

近年、覚せい剤汚染を要因とする犯罪も聞かれるが、空き巣程度であり、武装した強盗、凶悪犯などの例はない。

(2) 防犯対策

訪問客のチェック、戸締まり、現金・貴金属類の保管場所に気をつけるなど、一般的なことに留意すればよい。

(3) 被害時的心得

盜難現場を保持して警察に連絡する。当地の知人に被害状況説明の通訳を依頼する。パスポート、身分証明書、運転免許証などを盗まれた時は、警察に盜難証明書を発行してもらう。まず、パスポートの再発行手続きを優先するのが肝要である。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

災害の影響は、多くの場合、老朽化した住宅密集地に及ぶ。

水害は年に2～3回あり、農業地帯に影響を与える。市内でも、低地には雨水が集まるため、駐車場所などに気をつけること。また、雨後の砂漠のワジには渦流が押し寄せ、道路の陥没が発生する。見学、ドライブの際は気をつけること。

その他、濃霧や突風が時折ある。

消防：TEL 997

(2) 防災対策

該当情報なし。

(3) 被災時的心得

該当情報なし。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国情

(1) 空港施設概要

表示にしたがえば迷うことはない。トローリ（手荷物用カート）の使用は自由であり、ポーター（5~10 ディルハム）もいる。荷物引き取り場には免税店があり、クレジットカード、ドルが通用する。換金所は税関出口で 24 時間営業している。

(2) 入国情書類

必要な書類は、機内で渡される入国情カードのみである。住所は受入機関にする。失念した場合はホテル名でもよい。

ドバイ入国情管理局はドバイ首長国独自のもので、中央政府から完全に独立して機能している。東京のアラブ首長国連邦大使館で発給する 1 ヶ月間有効の Visit Visa で入国情した場合は、居住ビザへの切り替えはできない。

居住ビザを取得するには、Entry Permit での入国情から 3 年期限の居住ビザに切り替えるのが原則である。Entry Permit は、当國のスポンサー（受入機関）が用意して空港にて受け入れる。Entry Permit の申請には入国情者の氏名、父親名、生年月日、パスポート番号・発行年月日などが必要である。赴任 1 ヶ月前にパスポートのコピーを受入機関に送付しておくとよい。

本人が居住ビザを取得（20~30 日所要）するまで、家族は入国情できない。居住ビザの申請には、所定の申請用紙、Entry Permit、パスポート、パスポートのコピー、エイズ検査証明書、写真 3 枚、就業証明書、給与証明書（自分でタイプして、スポンサーのサインと印をもらう。3,000 ディルハム以下は家族同伴権利なし）、借家契約書のコピーが必要である。

本人の居住ビザ取得後、本人がスポンサーになり家族の Entry Permit を申請する。申請には家族のパスポートのコピー、本人のパスポートとそのコピー、借家契約書のコピー、所定の申請用紙（専門代筆業者が多数ある）が必要である。申請後 1 ~ 3 日で取得できる。家族の入国情まで日数がある時は、その Entry Permit を前もって家族に送付しておき、家族が入国情する際にパスポートにはさんでもよい。最も安全なのは、コピーのみを家族に送付して、到着 1 時間前にオリジナルを入国情事務所窓口に提出する方法である。

家族の居住ビザ取得は、本人、家族のパスポートとそのコピー 1 部ずつ、Entry Permit 書類、エイズ検査証明書（大人のみ）を添えて、所定の申請用紙で行う。出産で帰国情し、再度乳児を伴って入国情する場合も、乳児の Entry Permit を同様の手続きで取得しなければならない。

ドバイ入国情管理局では、日本の公用旅券に対する居住ビザの発給を拒否している。

(3) 入国情審査

入国情審査窓口は U A E 国籍、G C C 国籍、その他の外国人、居住ビザ所持者、Entry Permit 申請者に分かれているので、該当する窓口に並ぶこと。審査窓口では入国情カードとパスポートを提出する。特に質問はない。再入国情の場合も、居住ビザ所持者は入国情カードを添えて提出する。イスラエル入国情経験者（パスポートに入国情印の残っている人）は、イスラエルボイコット法により入国情を拒否される。

(4) 税関検査

酒1本、タバコ200本まで持ち込めるが、国内で安く購入できるので持参する必要はない。物品に対する税金はなく、通常はX線チェックのみでトランクは開けない。ただし、一旦不審に思われると徹底的に調べられる。麻薬類、銃砲類などに対するチェックは厳重であり、所持者は即刻留置場に送られる。外貨の持ち込みや持ち出しが問題ない。医薬品、農業資材、種子、花、果実などの持ち込みもかなり自由である。

(5) 空港内の留意点

常識を守れば特に注意することはない。空港内の盗難はほとんどない。

(6) 空港からの主な交通手段

赴任時は荷物が多いため、普通乗用車では乗りきれない場合がある。出迎えには、なるべく荷台の広いバンやジープなどを依頼するとよい。

迎えのない場合は空港専用タクシーを利用する。メーター制なので法外な料金を請求される心配はない。空港には白タクはない。

(7) その他の留意点

手荷物が未着の時は、税関検査横のLost Luggageの窓口に申請する。

Entry Permitでの入国時に書類が届いていないと、入国審査窓口で「書類なし」とパスポートを返される。あわてずに、備え付けの公衆電話（市内通話無料）にて受入先に連絡・確認して待機する。書類が届けば管理官が呼び出してくれる。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

混雑があるので、遅くとも離陸の2時間前には空港に到着すること（免税品店を利用する予定であれば3時間前）。通常、出発ロビーの人の出入りは自由であるが、混雑時には警察官がゲートで乗客以外の立ち入りを制止する。その場合は航空券を提示して入る。

チェックインカウンターは分かりやすい。便名表示のカウンターに並び、航空券とパスポートを提出する。チェックインの後、備え付けの出国カードに記入し（居住ビザ所有者は必要ない）、出国審査ではパスポートと共に提出する。出国税はない。

(2) 出国手続上の留意点

居住ビザが有効であれば、6ヶ月以内の再入国は自由である。国外滞在が6ヶ月以上経過するとビザは自動的に無効となる。6ヶ月以上の国外滞在予定者は、便宜的に有効期間内に再入国するか、ビザ抹消申請（帰国前10日間有効）をする。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

帰国予定の2週間前に完全帰国申請を行う。帰路変更などは「専門家の手引き」に従い、早めに諸手続きを進める。

(2) 車の処分

中古車センター、知人、新聞広告などの方法があるが、知人による場合が多い。売却手続きは簡易で、交通警察所定の売買契約書（代筆屋がタイプ）、自動車登録証、売却者と購入者双方のパスポートのコピー、購入者の運転免許証のコピーを揃える。その後、購入者が車両登録をする。中古車センターでの売買は売却者の書類だけでよ

い。税金などは一切ない。

(3) 家財道具の処分

中古家具引き取り業者、知人などに売却するか、広告、ガレージセールによる方法がある。日本への輸送には下記の海外引っ越し専門業者を利用するとよい。これらは荷造りから U A E 通関手続き、日本通関手続き、宅配までを請け負っており、大変便利で信頼度も高い。コンテナ船輸送で所要日数は 2 ~ 3 ヶ月程度である。日本で荷物到着の連絡を受けた後、パスポートのコピーと別送品申告書を業者に送付する。

<海外引っ越し専門業者>

Scotpac TEL : 221818

日本ライナー TEL : 521525 (Ext. 286)

日本郵船 TEL : 457647

(4) 住宅の明け渡し

管理人には退去の 1 ヶ月前までに口頭か文書にて通告する。水道・電気料金は、管理人が明け渡し数日前にメーターをチェックして精算するか、水道・電気局の記録係を呼んで使用量をチェックし、局窓口で精算する。電話料金の精算は、電話機とパスポートを Etisalat (電電公社) の電話抹消窓口に持参して行う。

マンションの場合は電話は備え付けで、水道・電気料金は家賃などに含まれている場合が多い。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

ヨーロッパ系の輸送業者 SCOTPAC や日本郵船など多数ある。

(2) 輸入手続

輸入代理店は多く、いずれもドバイ港の周辺にある。荷送り状、内容証明書、パスポート、就業証明書を渡して依頼する。官庁には独自の輸入物品引き取り業務部がある。携行機材は配属機関に任せた方がよい。家財の送付には氏名、赴任先機関名、住所が必要で、機材は赴任先機関名、住所だけでよい。

アブダビの日本大使館気付にすると、荷物はアブダビ空港着となり、引き取りに大使館職員の手を煩わすことになるので避けた方がよい。

(3) 輸入荷物の受取り港

船便はドバイ港、空輸はドバイ空港に到着する。

(4) 家財道具の購入

新聞紙上に中古家具の広告が出ている。所有者と直接交渉するとよい。

15-2 自動車

(1) 一般状況

当地では車は必需品である。ドバイは貿易自由港であり、日本車、アメリカ車、ヨーロッパ車が揃っている。したがって日本より輸入する必要はない。エアコン、カーステレオなども付属している。外国車両の価格は日本と較べて安価である。日本車の整備サービスは優れている。

(2) 輸入手続

輸入の必要はない。

(3) 任国での購入

新車のほか中古車も多数あり、日本車各種、ベンツ、BMWなどが揃っている。

(4) 自動車登録

車両登録や売買の手続きは比較的簡単である。代理店（新車）、中古車センター、個人からの購入など、購入ルートにより手続きは多少異なる。

新車の場合は、購入先の代理店が登録手続きを代行することが多い。

中古車の場合は、自ら交通警察に出向いて手続きを行う。必要書類は所定の申請用紙（窓口の近くに専用タイプ業者がいる）、パスポートのコピー（居住ビザの部分が必要）、U A E発行の免許証のコピー、所属先の就業証明書、車両購入契約書、車両保険証である。これらにパスポートサイズの写真、登録手数料などを添えて提出する。

車検は毎年義務づけられている。毎年、登録日の1週間前から受け付けている。ブレーキ、ライト、ワイパー、エンジン、車体などがチェックされる。

再登録には所定の申請用紙、車両検査合格証明書（交通警察にて検査）、車両保険証、パスポートのコピー、U A E運転免許証のコピー、所属先の就業証明書、手数料が必要である。本人が行う必要はない。

(5) 免許証取得

国際免許証は通用しない。日本の免許証はU A E 免許証に切り替えることができる。

手続きは交通警察窓口にて行う。免許証、免許証の翻訳証明書（大使館発行）、パスポートのコピー（居住ビザの部分が必要）、所属先の就業証明書、写真、血液型証明書（指定病院発行）が必要である。手続きは煩雑であるため、地元の知人に同行してもらうとよい。書類手続き終了後に視力テストがある。

ただし、居住ビザの取得に20～30日程度かかるので、免許証切り替え手続きは赴任後早くても1ヶ月後から開始することになる。この打開策として仮免許証制度がある。必要書類のコピー、居住ビザの申請を現在行っているという証拠書類のコピーを持参して申請する。これは警察署長の決裁を仰ぐことになるが、当地の事情に詳しい人に同行してもらうとスムーズである。仮免許証は2日程度で取得でき、有効期間は1ヶ月である。

(6) 保険、税金

自動車保険は車両登録の際に必要であり、全額補償保険に加入する。保険会社は多数あるが、当地の人がよく利用しているところがよい。保険料は車両の一般推定価格によって決まる。新車購入の際は、代理店で保険加入手続きもしてくれるが、2年目からは自分で適当な保険会社と契約することになる。

16. 社交

16-1 風俗習慣

当地の人の服装は、男性はカンドーラにサンダル、女性はアバヤに靴である。外国人は洋服または民族衣装である。町なかでの服装は自由で、短パン、Tシャツでもかまわない。事務所内ではカッターシャツが多く、ネクタイは着用していない。なるべく素肌は露出しないよう留意すること。

公衆の面前での暴言、けんかや酒酔い運転は即刻拘置所に送られる。ドバイの隣の首長国シャルジャでは禁酒を守っており、ホテルにも酒は置いていない。

ラマダン（断食月）の約1ヶ月間、すべての国民は日の出から日没まで断食をする。外国人は断食の必要はないが、屋外での飲酒は禁止されている。特に公衆の面前での喫煙と飲食は法的にも厳禁であり、たとえ故意ではなくても厳罰の対象となる（病人、老人、妊婦、子供は対象外）。すべての飲食店は日の出から日没までは閉店している。ホテルも例外ではなく（ドバイのホテルを除く）、宿泊客はルームサービスでしか飲食できない。ラマダン期間中は、国全体が空腹と寝不足のために苛立ちと倦怠感に陥る。多くの高官はこの間に休暇をとるので、ラマダン期間中における当国への公務派遣は避けるべきである。

アラブ人の結婚式は披露宴のみである。花婿側で、男性と女性をそれぞれ別の日に、ホテルまたは自宅に招待する。男性の披露宴には花嫁は出席しない。披露宴には多くの知人を集めるが、スピーチや踊りなどはなく、会食だけで終わる。贈り物の習慣はない。

砂漠で面識のない人から飲食、バーベキューの招待を受けたら、丁重に断るのが常識である。

16-2 パーティーでの留意点

パーティーに子供を同伴してはいけない。必ず子供を預けてから出席すること。日本人会主催のパーティーでは、会場のホテルにベビーシッターを依頼している。バーベキューパーティーなどでは、子供の同席が認められることもある。

男性、女性、子供は別々の部屋に分けられ、閉会まで会うことはない。女性の写真撮影は厳禁であるが、男性と子供は問題ない。食事開始は遅く、22:00頃である。

16-3 来客時の留意点

当國の人を招待する際は、アルコール類、豚肉料理は出さないこと。自分が飲む場合には、相手の了解を得ること。ラマダン期間の招待は避ける。

16-4 訪問時の留意点

特に贈り物の習慣はないが、菓子、ケーキ類を持参するとよい。

食事はフォーク、スプーンを用意してくれるが、右手で直に食べる方がよいこともある。左手で食べ物を手渡してはならない。コーヒー、紅茶が出た後が退出時である。

16-5 禁止されている言動

人を指差したり、頭を撫でてはいけない。左手で、握手や物の受け渡しをしてはならない。町なかでの酩酊、罵声、唱歌は厳禁である。

飲酒によるけんか、猥褻行為、広言などは留置場送りであることを肝に銘じること。

17. 任国官公庁

アラブ首長国連邦は7つの首長国より構成されており、連邦政府と各首長国政府が独立して機能している。

すべての官公庁の電話番号は、White Pages（電話帳）の最初に掲載されている。

執務時間は、土～水曜日は7:30～13:30、木曜日は7:30～12:00、金曜日は休日である。なお、ラマダン期間中は9:00始業である。

18. 在外日本関係機関など

日本国総領事館

所在地：Dubai World Trade Center 27-F

私書箱：P.O. Box 9336 Dubai

電話：319191, Fax 319292

J E T R O

私書箱：P.O. Box 2272 Dubai

電話：232093

19. 地方都市

該当情報なし。

アブダビ編

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

ドバイ（商業中心の都市）とアブダビ（行政中心の都市）は、両都市が海岸線に位置しているため気候的に類似しており、生活環境も類似しているといえる。

ドバイ同様、日本食品を含む各種多様な食料品が出回っており、在庫管理も安定しているため食生活に不安を感じることはない。

(2) 主な食料の出回り状況

状況はドバイとほぼ同様である。魚スーク（スーク=市場）があるが、流通の関係上、鮮度はドバイほどではなく、刺身にできるものは少ない。

一部の日本食品に限り、出回らない時季もあるが、長期に及ぶことはない。

(3) 食料の入手

大きなスーパーマーケットではあらゆる食料品が購入でき、豚肉コーナーもある。

日本食料品は Cosmo Summit Trading やアブダビ・コープ・ツーリストクラブ支店で販売されているが、価格は日本の約3倍程度である。

野菜、果物などはスーク（総合市場）で新鮮なものが売られている。

1-2 食器、調理器具など

ドバイ編を参照のこと。

1-3 外食

(1) 飲食店

日本料理店（3軒）、韓国料理店（1軒）、中華料理店（多数）などのほか、フランス、イタリア、アラブ、インド、パキスタンなど各国料理のレストランがある。ホテル内のレストランではアルコールを出している。

(2) その他の飲食店

ドバイ編を参照のこと。

2. 衣料

ドバイ編を参照のこと。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

邦人の多くはマンションに居住している。

アブダビ島は土地が狭いため、賃貸住宅は多数あるが、外国人対象のビルは少ない。

また、家賃の相場は首長国連邦内で一番高い。

3-2 ホテル事情

市内には高級から中級まで多数のホテルがある。邦人、欧米人がよく利用しているホテルは Hilton、Inter Continental Hotel、メリディアン、ハイヤット、ホルテグランドなどである。EXPO などがある場合はかなり混むが、通常は比較的容易に予約できる。

3-3 住宅の探し方

知り合いを通して探す、自ら出向いて探す、代理店を利用するなどの方法がある。

3-4 住宅の選定上の留意点

地下駐車場付きのマンションを探すこと。その他、ドバイ編を参照のこと。

3-5 住宅の契約

ドバイ編を参照のこと。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

ドバイ編を参照のこと。

3-7 その他

借家契約における課税はない。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

ドバイ編を参照のこと。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

医療事情は比較的良好であり、日常的疾病の治療については特に問題はない。しかし、手術および重病の治療は日本で受けた方が無難である。

国立病院にかかる場合は医療登録が必要である（医療登録についてはドバイ編を参照のこと）。緊急の場合を除き、一般診療には Health Center の診断書が必要である。

Health Center には次のものがある。

Khalidiya Health Center.....TEL : 655202

Medinah Clinic.....TEL : 341680

New Rawda Clinic.....TEL : 341347

民間の病院、診療所の診察料は高い。しかし、国立の施設のように長く待たされることはない。通常、民間の医療機関にかかるには前もって予約をした方がよい。

邦人が利用している民間の病院、診療所には次のものがある。

New Medical Center.....TEL : 332255

Al-Noor Hospital.....TEL : 727222

American ClinicTEL : 771310

上記の New Medical Center および Al-Noor Hospital には 24 時間体制の救急外来がある。また、国立の Central Hospital (TEL:214666) や Al-Mafraq Hospital (TEL:0251-23100) にも同様の救急外来がある。

(2) 緊急時の対応と措置

緊急時には救急車を手配できる。アブダビの救急車呼び出し電話は 998 番である。

この業務は 24 時間体制で、国立の救急医療機関に移送される。

薬局は町のいたるところにあり、当番制で 24 時間営業が義務づけられている。

大使館には医務官が常駐しており、処置を相談することができる。

4-3 医薬品など

4-4 妊娠、出産、育児

4-5 手術

4-6 任国でよくかかる傷病

4-7 保健衛生

4-3～4-7 項はドバイ編を参照のこと。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

ドバイ編を参照のこと。

(2) 日本人学校

アブダビには日本人学校があり、小学校、中学校が併設されている。現在、生徒は40人、教員は13人である。

(3) 現地校、外国人学校

外国人を受け入れている私立校として、ショイファット校（レバノン系）、アメリカンスクール、ブリティッシュスクールがあり、これらの学校では英語で授業を行っている。また、フレンチスクールもあり、フランス語で授業を行っている。

(4) 幼稚園

在留邦人有志により、アブダビ日本人学校内に設置され運営されている。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学金は800 ディルハム（約220ドル）、授業料は月額1,120 ディルハム（約310ドル）である。このほか送迎バスを利用する場合は保険料の負担がある。

(2) 現地校、外国人学校

該当情報なし。

(3) 幼稚園

日本人学校内にある幼稚園の入園料は800 ディルハム、保育料（月額）は850 ディルハムである。このほか送迎バスを利用する場合は保険料の負担がある。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

該当情報なし。

(2) スポーツ施設

民間のスポーツクラブがある。また、ホテルなどでも会員制のクラブを持っており、比較的容易に入会できる。

5-4 家庭学習

ドバイ編を参照のこと。

6. 家庭の使用人

ドバイ編を参照のこと。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

道路網は整備されている。

(2) 自家用車を利用する場合

街の中心部はかなり混み合っているので、運転には十分な注意が必要である。

一般に、交通マナーは良いとはいえない。タクシーなどは路上で急に止まったり発進したりする。また、かなりの車が方向指示なしで車線変更をしたり、右左折をするので注意が必要である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

車両のほか、運転手付きで借り上げることもできる。

主要なレンタカー会社は次のとおりである。

・ AVIS

TEL : 323760 (アブダビオフィス) 、 757180 (アブダビ国際空港オフィス)

営業：土～木曜日 8:00～13:00、16:00～19:00、金曜、祝祭日 9:00～12:00

・ Budget

TEL : 334200

営業：土～木曜日 7:00～0:00、金曜日 11:00～19:00

・ Europcar

TEL : 757183

営業：土～木曜日 9:00～14:00、16:00～0:00

(4) 道路地図

アブダビ、ドバイなどの市内地図は書店 (All Prints など) で容易に入手できる。

7-2 交通事故

ドバイ編を参照のこと。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

信号無視には重い罰則があり、市内の交差点には信号無視を探知するレーダーが設置されている。その他、ドバイ編を参照のこと。

(2) 対処方法

ドバイ編を参照のこと。

7-4 車の修理

ドバイ編を参照のこと。

8. 通信

ドバイ編を参照のこと。

9. マスコミ

ドバイ編を参照のこと。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

該当情報なし。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

アラビア語、英語、フランス語などの書籍は比較的容易に入手できる。ただし、専門書などは一般的な書店ではなく、発行元に直接問い合わせることになる。日本語の出版物は販売されていない。

(2) 書店

大小さまざまな書店がある。そのなかでも All Prints は地図、アラブ首長国連邦(UAE) 情報関係、観光、料理、小説、雑誌など比較的揃っている。そのほか文房具も扱っている。

10-3 語学学習

ドバイ編を参照のこと。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

展示会などは盛んではないが、その他はドバイと類似している。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動内容

該当情報なし。

(3) その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

写真撮影は、ドバイほど自由ではない。撮影禁止区域には標識(カメラに×マーク)が立っている。総合市場内も撮影禁止である。

(2) ビデオセット

ドバイ編を参照のこと。

(3) 各種テープ

ドバイ編を参照のこと。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

10-8 趣味

10-9 娯楽、遊戯など

10-6~10-9 項はドバイ編を参照のこと。

10-10 スポーツ

(1) テニス

主要ホテルのほか、スポーツクラブにもコートがある。邦人の間で盛んである。

(2) 水泳

ホテル、高級住宅などにプールがあるほか、スポーツクラブのプールも利用できる。

また、高級ホテルにはプライベートビーチがある。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

邦人が行っているものに、釣り、マリンスポーツ、ボウリングなどがある。

用具、ウエアは、こだわらなければ一通り入手できる。ただし、体型にあっていなければならないもの（水着など）は持参した方がよい。

(4) スポーツクラブなど

アブダビ内に4～5カ所のスポーツクラブがある。

10-11 子供の遊び

ドバイ編を参照のこと。

11. その他のサービス

ドバイ編を参照のこと。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

ドバイ編を参照のこと。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ドバイ編を参照のこと。

12-3 旅行

(1) 自動車

該当情報なし。

(2) バス

アブダビよりドバイなどへ長距離バスが出ている。

(3) 鉄道

該当情報なし。

(4) 航空機

該当情報なし。

12-4 旅行代理店

該当情報なし。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

該当情報なし。

13. 治安、緊急時の心得

ドバイ編を参照のこと。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

最寄りの空港は、町の中心部から車で約 30 分のところにあるアブダビ国際空港である。

(2) 入国手続書類

ドバイと異なり、在日 U A E 大使館で発給された Visit Visa から Residence Visa への書き替えが可能である。本人が入国後 Residence Visa を取得し、それから家族を呼び寄せる方法が一般的である。Visit Visa から Residence Visa への書き替えには約 1 ヶ月を要し、1 人当たり 650 ディルハムが必要である。また、家族の手続きは本人の手続き終了後約 1 ~ 2 ヶ月を要する。したがって、入国後 3 ~ 4 ヶ月は手元にパスポートがない。

(3) 入国審査

ドバイ編を参照のこと。

(4) 税関検査

ドバイよりも厳重に検査される。麻薬、ポルノなどは厳禁である。

(5) 空港内での留意点

ドバイ編を参照のこと。

(6) 空港からの主な交通手段

高級ホテルに宿泊の場合は予約を入れておくと送迎バスが出る。一般にはタクシーのみである。流し（メーター制）やガゼールタクシー（70 ディルハム）などもある。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

ドバイ編を参照のこと。

14-3 帰国手続

ドバイ編を参照のこと。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

輸入管理事務は複雑で時間がかかる。空港の税関もドバイのようにスムーズではなく、トランク類はほとんど開けてチェックされる。したがって、輸送荷物の受け取りはドバイで行う方がよい。ドバイからアブダビへの輸送には、トラックを借り上げることができる。

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

家財道具の輸送にはトラックタクシーを利用する。

(2) 輸入手続

ドバイ編を参照のこと。

(3) 輸入荷物の受取り港

船便の場合はドバイ港、空輸の場合はドバイ空港である。

(4) 家財道具の購入

該当情報なし。

15-2 自動車

ドバイ編を参照のこと。

16. 社交

ドバイ編を参照のこと。

17. 任国官公庁

ドバイ編を参照のこと。

18. 在外日本関係機関など

在U A E 日本大使館

住所：Abu Dhabi (P.O. Box 2430)

電話：435696

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

日本食品にこだわらなければ、日常的な食料は当地の市場で十分入手可能である。町なかには大きなスーパーマーケットが数軒あり、小さな雑貨屋、商店はいたるところにある。

冷凍・冷蔵品の管理システムにはまず問題はない。ただし、購入の際は生産日、賞味期限を確認した方がよい。生鮮食料品（野菜、魚介類など）を除く、すべての食料品には生産日と賞味期限が明記されている。

(2) 主な食料の出回り状況

穀類・パン・めん類——米、もち米、小麦粉、パン、スペゲティ、その他めん類などは時季に関係なく購入可能である。

米はエジプト、オーストラリア、アメリカなどから輸入されている。インド米もある。パンはアブダビ、ドバイから輸送されてくるもの、当地で生産されているものなど種類も多様である。アンパン、クリームパンなどはないが、食パン、フランスパン、チョコレートパンなどは入手できる。欧米のスペゲティ、東南アジアや韓国のインスタントラーメンなどがある。

肉・乳製品——豚肉を除き、新鮮なものが入手できる。大きなスーパーマーケットでは冷蔵・冷凍肉、小さな商店では冷凍肉を販売している。チョイットラム・スーパー・マーケットでは冷凍の豚肉を扱っているが質はよくない。

魚介類——魚介類は主にオマーンから入ってくる。季節により出回る種類は限られるが、量は豊富である。年間を通して入手可能なのはイワシ、タイ、アジ、カツオなどである。ただし、刺し身にするには鮮度にやや不安がある。刺し身用にはドバイ、シャルジャ、フジャイラから購入した方が無難である。

野菜・果物——一年間を通して大抵の野菜（きゅうり、トマト、ピーマン、玉ねぎなど）や果物が入手できる。ただし、夏場は大根、ネギ、葉ものの入手がやや困難となる。

酒類——政府発行の酒類購入許可証があれば、アルAINヒルトン従業員宿舎の前にある酒店で購入できる。インターモンチネンタルホテル、アルAINヒルトン内では飲酒が許可されているが、その他の公衆の場所での飲酒は一切禁止されている。

日本食品——ドバイ、アブダビから購入するのが一般的である。価格は日本の約3倍である。アルAINで常に購入可能なものは豆腐としょうゆだけである。

その他——調味料、乳幼児用のミルクや食品、菓子類、清涼飲料水、ミネラルウォーターなどは容易に入手できる。

(3) 食料の入手

邦人や欧米人が利用している主な大型スーパーマーケットは次のとおりである。いずれも食料品のほか日用雑貨も揃っている。

- ・生協（一般にジャマイヤと呼ばれている）
- ・チョイットラム・スーパーマーケット（日本食品がある）
- ・プリズニック・スーパーマーケット（味に定評のあるパン店がある）
- ・アル・ワハ・スーパーマーケット
- ・シャバブナ・スーパーマーケット

また、町の中心部にある野菜スク（スク=市場）では新鮮な野菜を、魚スクではオマーンから輸送された魚介類を売っている。交渉すれば少し安くなる。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

日常生活に必要なものは一通り入手できる。また、当地にない物でもドバイ、アブダビでは大抵購入できる。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

湯飲みや急須などもドバイ、アブダビでは購入可能だが、日本の約3倍の値段であり、品質は期待できない。また、菜ばし、巻き寿司などに使う箸、すし桶、刺し身包丁、竹製しゃもじ、箸（子供用、来客用）なども入手しにくいので持参した方がよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

日本料理店はない。街には中華料理店が1軒あるほか、レバノン、インド、パキスタン、フィリピン料理などのレストランが多数ある。また、ホテルにも各種レストラン、バー、ディスコがある。水はミネラルウォーターを注文するのが無難である。

(2) その他の飲食店

ケンタッキーフライドチキン、ピザハット、デニーズなどがある。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

アルアインは内陸に位置しているため、ドバイ、アブダビとは異なり、湿気はない。しかし気温は高く、6～8月は連日40℃を超える暑さとなる。一方、冬場は最低気温が10℃程度、最高気温は25℃程度と非常に快適である。

夏場は強い日差しを避けるため、薄手の長袖シャツ、Tシャツなどを着用する。帽子は必需品である。冬場は朝夕にセーター、カーディガン、ジャケットなどが必要となる。衣料品店は各種あるが、邦人の体形にあう品は少ない。

ドバイ、アブダビとは異なり、欧米人の少ないローカル色の強い町である。女性は肌の露出の多い衣服は慎しむこと。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

日常の生活・仕事上で正装することはほとんどないので、日本においては休日に着用するような、カジュアルな衣類を多めに持参するとよい。運転するのであればサングラスも必要である。男女子供とも、下着類は多めに持参するとよい。

男性——下着類、背広、ワイシャツ（半袖、長袖）、ズボン、作業用ズボン、帽子、海水パンツ、Tシャツ、カーディガン、セーターなど。

女性——下着類、半ズボン、Tシャツ、スカートなどのふだん着、水着、ストッキングなど。

子供——下着、ふだん着など。

乳幼児——紙おむつなどは各種揃っているが、おむつカバーは持参した方がよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

該当情報なし。

(4) その他の留意点

必要な衣類は購入できるので、多くの衣類を持参する必要はない。

2-2 礼装

(1) パーティー

男性は背広、女性はワンピースまたはスーツで十分である。

(2) 式典

礼服を着る機会はほとんどない。

(3) 冠婚葬祭

同上。

(4) その他の留意点

クリーニング技術の問題もあるため、着物など高価なものを持ってくる必要はない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は多い。知人、友人に評判を確かめて店を選択するとよい。

(2) 仕立て、修繕

既製品、もしくは写真（スタイルブックなど）を持参して同じ物を発注するとよい。

しかし、高価な材料で仕立てることは勧められない。

(3) 保管

湿度が低いため、あまり気を使わなくてもよい。日本での通常の手入れで十分である。防虫剤などはある。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

賃貸物件の数には比較的余裕がある。ただし、ドバイ、アブダビのような家具付きの賃貸住宅はない。エアコン、家具、食器などは自分で買い入れるか、家主と交渉して入れてもらう。邦人の多くはホテルの長期滞在者用施設を利用している。

3-2 ホテル事情

アルアイン市内にはホテルが4つある。邦人、欧米人によく利用されているのは Al Ain Hilton、Inter Continental Hotel やオマーンの Bulaimi Hotel などである。週末には混むこともあるが、平日は比較的容易に予約できる。また、これらのホテルは長期滞在者用の施設も備えている。

3-3 住宅の探し方

知り合いを通す、自ら出向いて探す、代理店を利用するなどの方法がある。

3-4 住宅の選定上の留意点

該当情報なし。

3-5 住宅の契約

家主との直接契約である。通常1年間契約である。住宅契約に対して課税はない。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、上水道事業は公営である。各事務所まで出向いて手続きを行う。ガスはプロパンガス専門店から配達してもらう。

3-7 その他

該当情報なし。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

ドバイ編を参照のこと。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

総合病院には国立の Al Ain Hospital、Tawam Hospital と私立（キリスト教系）の Oasis Hospital がある。このうち Tawam Hospital は UAE 国籍の人が対象で、原則として外国人は受け付けていない。

国立病院では、医療登録（初年度納入金 200 ディルハム）を行えば初診料（25 ディルハム）を払うのみで、その後の診察、入院などは無料となる。欧米から導入された最新鋭の機材が揃っており、医師には近隣アラブ諸国の人をはじめ、インド、パキスタン人が多い。診療は基本的に午前中のみである。国立病院は費用が安いため常に混んでおり、受診まで長時間待つことになる。

緊急時には Emergency Section にて医療登録なしでも診療を受けることができるが、できればアブダビ、ドバイの病院で診てもらう方が無難である。

まず各地にある保健所（クリニックと呼んでいる）で初診を受け、そこで必要と判断された場合は上記総合病院にかかることになる。保健所から診断書などが出るので、それを持って総合病院に出向く。

民間の病院、診療所もあるが受診料は高く、技術や施設も病院により較差がある。友人、知人に信頼できる病院を教えてもらうとよい。

歯科、眼科の医師もいるが、外国人はドバイやアブダビに出向いて診療を受けているケースが多い。

(2) 緊急時の対応と措置

救急車は電話（998 番）で呼ぶことができる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

かぜ薬、頭痛薬、目薬、胃腸薬、ビタミン剤、下痢止め、避妊具などの日常的な医薬品や衛生用品は持参した方が無難である。また、小児用の風邪薬、目薬、解熱剤（経口、座薬）、食あたり用の薬、湿布薬、傷薬などは多めに持参した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

医薬品は欧米諸国から輸入されており、大抵の医薬品は入手可能である。風邪や軽い外傷であれば、薬局に行って症状を説明すれば適当な薬を出してくれる。

(3) 任国で調達できる衛生用品

大抵のものは欧米から輸入されている。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

市販薬の服用量は欧米人を対象に設定されている。体格的に邦人には多すぎる場合があるので、様子を見ながら服用を加減することも必要である。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

まずクリニックで診断を受ける。妊娠が認められた場合は総合病院に行き、定期的な検診を受ける。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

エアコンを使うことが多いが、乳幼児のため温度管理には気をつけること。また、夏季には気温が45℃を超えることが度々あるので外出時は十分気をつけること。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

総合病院ではあらゆる手術ができる。ただし、技術は医師によりかなりの差があるため、信頼できる医師を選定するか、そのような情報がない時はドバイ、アブダビの大きな病院にかかる方が無難である。

(2) 手術設備の状況

国立病院には最新鋭の機材が揃っている。

(3) その他の留意点

知人、友人の紹介など、なるべくよい医師に診察してもらえるよう考慮すること。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

埃による眼病や、水にカルシウム分が多いために起こる胆石などが多い。

(2) 風土病・伝染病

該当情報なし。

(3) 有害動物、病害虫

当地は周辺が砂漠であり、ピクニックに出かけることがよくある。砂漠にはサソリ、ヘビ、トカゲなどがいるので注意が必要である。

サソリは石の下や材木が積んであるところに隠れている。刺されても生死に関わることはないが、耐え難い苦しみを味わう。

ヘビには、咬まると死に至る種類もあるので、特に注意する必要がある。

このような動物はいずれも湿り気の多いところや、石、ブロックの下などにいることが多い。しかし、日常生活上は特に恐れることはない。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

飲料水は、すべてアブダビから送水管で送られる海水蒸留水で賄われている。

一般に、水道水は安全だとされているが、飲用には市販のミネラルウォーターを使用するのが無難である。ミネラルウォーターは当地産も含め各種ある。

(2) 濾過器の入手

濾過器は工具店で入手できる。しかし、アルAIN市内で生活する限り必要性はない。水道のない地方で井戸水などを使用する場合には必要である。

(3) その他の留意点

夏季には日射、熱射病に注意する必要がある。また、強い直射日光で肌を焼くことは避けるべきである。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

公立の学校は多いが、すべてアラビア語による授業である。邦人や欧米人の子弟は英語を使うインターナショナルスクールに通っている。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。

(3) 現地校、外国人学校

主なインターナショナルスクール（すべて私学）には、ショイファットスクール、イングリッシュスピーキングスクール、スノーバルスクールがある。教員には欧米人が多い。

(4) 幼稚園

ショイファットスクール幼稚園部、Al Ain English Nursery Schoolなどがあり、英語による保育を行っている。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

インターナショナルスクールの授業料は高い。学年により異なるが、年間1万2,000～1万5,000ディルハム程度である。年度開始（9月）から4ヶ月程度での完納が義務づけられており、返却はない。

(3) 幼稚園

私立幼稚園の費用は年間8,000～1万ディルハム程度である。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

個人で利用できる施設はない。

(2) スポーツ施設

アルアインスポーツクラブ、カッターラスポーツクラブがある。また、アルアインヒルトン、インターリンチネンタルホテルのスポーツクラブも利用できる。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語やアラビア語など、語学の家庭教師はいる。算数などの各教科の家庭教師はない。

(2) 通信教育

日本の通信教育を受けることができる。アブダビ日本人学校が出張授業を行うことがある。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語関係の教材、辞書類は携行するべきである。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

U A E 国籍の人は運転手、家政婦／夫、ガードマンなどを雇用している。邦人や欧米人も、賃貸住宅に居住している場合は家政婦／夫を雇用している。ホテル住まいの場合は必要ない。

6-2 運転手

ドバイ編を参照のこと。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

掃除、洗濯、炊事など家庭内の雑務を行う。

(2) 雇用

家政婦／夫の仲介業者があるので、業者の持つリストから適当な人を指名する。業者からその人に連絡し、航空運賃を送る。指名後2週間から1ヶ月で指名した人が来てくれる。スリ・ランカやフィリピンの人が多い。勤務は住込みとなる。

給与は月 400～550 ディルハム程度である。作業用の衣服、食事、寝室、医療費、2年に1回の帰国休暇の航空運賃などは雇用主の負担となる。

(3) 日常管理

仕事の役割分担をはっきりさせること。また、雇用主と使用者とのけじめを明確にすることも肝要である。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

該当情報なし。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

アル Ain 周辺の町やアブダビへ行くバスはあるが、市内循環のバスはない。市内の交通機関はタクシーのみである。メーター制であるが、慣れるまで女性の単独乗車は勧められない。日常は自家用車での移動がほとんどである。

(2) 自家用車を利用する場合

該当情報なし。

(3) レンタカーなどを利用する場合

ホテル内に Hertz、Europcar などのレンタカー会社が事務所を持っており、簡単に利用できる。運転手はドバイ、アブダビから来ることが多いため、運転手付きで借り上げる場合は早めに頼んでおいた方がよい。

(4) 道路地図

アブダビ、ドバイの書店で入手可能である。

7-2 交通事故

ドバイ編を参照のこと。

7-3 交通違反

ドバイ編を参照のこと。

7-4 車の修理

(1) 部品

部品は、自動車修理店および部品専門店で入手できる。純正品と、品質の劣る模造品があるので、購入する際はどちらかを確認する必要がある。

(2) 修理工場

メーカー直系の修理工場と、パキスタン、イラン人などが経営する個人修理店があり、様々な修理が可能である。修理店や修理工場はソナイア地区とブレーミーのメインストリート沿いに集中している。

8. 通信

ドバイ編を参照のこと。

9. マスコミ

ドバイ編を参照のこと。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

ドバイ編を参照のこと。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

書籍の入手は困難である。アブダビ、ドバイで購入することになる。

(2) 書店

該当情報なし。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

ブリティッシュカウンシルで英語、アラビア語学習が可能である。

(2) 家庭教師

英語、アラビア語の家庭教師を依頼することができる。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

博物館がある。文化活動は活発とは言えず、農業展示会が年1回程度あるだけである。他にはアルAINヒストリークラブがピクニック、登山などの行事を行っている。

(2) 日本・友好協会などの有無と活動内容

該当情報なし。

(3) その他の文化活動、文化施設

各オアシスの城を復元するなど、文化、観光活動に力を入れ始めている。

10-5 写真、ビデオ

ドバイ編を参照のこと。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

情報の入手は困難である。西洋音楽の音楽会、コンサートはない。民族音楽についても情報は少ない。

(2) コーラス、演奏グループ

該当情報なし。

(3) ピアノなど

該当情報なし。

(4) CD、レコードなど

ミュージックテープの他、CDが出回るようになった。レコードはほとんど見かけない。

(5) 民族楽器

アブダビ、ドバイで購入できる。

(6) その他の楽器

ギターが売られているが、品質はよくない。アブダビ、ドバイで購入した方がよい。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

イングリッシュスピーリングスクールの婦人活動で手芸や絵画が盛んである。

(2) 絵画、美術工芸

同上。

10-8 趣味

(1) 園芸

ドバイ編を参照のこと。

(2) 釣り

内陸であるため、アブダビ、ドバイ、フジャイラなどに出向くことになる。

(3) その他

四輪駆動車での砂丘へのドライブはおもしろい。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

ファンシティーという当国最大の遊園地があり、子供用の乗り物やスケート場などがある。食べ物の持ち込みが許されており、中で食事ができる。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

時折サーカスが来るが、アブダビ、ドバイで行われる興行に出向くことが多い。

10-10 スポーツ

(1) テニス

ホテル、スポーツクラブにテニスコートがあり、盛んに利用されている。

(2) 水泳

ホテルにプールがある。宿泊客でなくとも有料で使用できる。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

インターベンチネンタルホテルに乗馬クラブがある。また、砂漠ツアーやボウリングなどを楽しむことができる。

水泳、テニス、サッカー、バスケットボール、バレー、スカッシュ、クリケット、釣りなどの用具は入手可能である。ただし、高級品を望む場合はアブダビ、ドバイで購入することになる。

(4) スポーツクラブなど

アルainsportsクラブとカッターラスポーツクラブがある。

10-11 子供の遊び

当地では、外国人と遊ぶのが一般的である。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

ドバイ編を参照のこと。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院は、アルアインヒルトン、インターベンチナルホテル内にある。また、街にはフィリピン人経営の美容院もある。

理髪も、上記ホテルの美容院で行っている。また、パキスタン人経営の理髪店も多数ある。子供がいる場合は散髪用具（剃刀、バリカンなど）を持参するとよい。

自分に合う化粧品、整髪剤などがあれば持参した方がよい。当地の製品には香りや刺激の強いものが多く、また、日本のヘアトニックのようなものはない。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

ドバイ編を参照のこと。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

アルアイン動物園、遊園地、ヒリ古代遺跡がある。

12-3 旅行

該当情報なし。

12-4 旅行代理店

該当情報なし。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

該当情報なし。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

当地では、日本人会（アブダビ）に入っても日常的な活動には参加できないため、JICA 専門家は入会していないケースが多い。したがって、緊急時には直接大使館に連絡するか、または大使館から連絡が入るようになっている。

13-2 強盗、盗難

ドバイ編を参照のこと。

13-3 火災、風水害、地震

ドバイ編を参照のこと。

14. 出入国手続および帰国手続
ドバイ編を参照のこと。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

- (1) 輸送業者
アブダビ編を参照のこと。
- (2) 輸入手続
ドバイ編を参照のこと。
- (3) 輸入荷物の受取り港
船の場合はドバイ港、空輸の場合はドバイ空港である。
- (4) 家財道具の購入
該当情報なし。

15-2 自動車

- (1) 一般状況
ドバイ編を参照のこと。
 - (2) 輸入手続
ドバイ編を参照のこと。
 - (3) 任国での購入
新車購入に特に問題はなく、すぐに入手できる。中古車は、新聞広告や中古車販売場（日本のような中古車展示場ではなく、買いたい人、売りたい人が直接交渉する場）などで入手できる。
 - (4) 自動車登録
 - (5) 免許証取得
 - (6) 保険、税金
- (4)～(6)はドバイ編を参照のこと。

16. 社交

16-1 風俗習慣

多くの外国人が住んでいるため、生活習慣の違いからトラブルが起きることもある。

状況判断をしながら楽しい交流を心がけること。その他ドバイ編を参照のこと。

16-2 パーティーでの留意点

16-3 来客時の留意点

16-4 訪問時の留意点

16-5 禁止されている言動

16-2～16-5 項はドバイ編を参照のこと。

17. 任国官公庁

ドバイ編を参照のこと。

18. 在外日本関係機関など

該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などのJICA関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家などのJICA関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されており、赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア（ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン）
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ（バンコク、チェンマイ、コンケン）
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ（アンカラ、イスタンブール）
15. アラブ首長国連邦（ドバイ、アブダビ、アライン）
16. イエメン（サナア）

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. バブア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァスアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェコ
10. ルーマニア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル（アンタナナリボ、アンチラナナ）
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ポツワナ
32. エリトリア

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア（ラ・パス、サンタクルス）
3. ブラジル（ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ボルトアレグレ、ペレーン）

4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンジュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ（アスンシオン、エンカルナシオン）
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ

「任国情報（アラブ首長国連邦）1998年版」

平成11年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号
電話 (03)3269-2357

